

一九六 明治卅年十月三十七日

蘭国公使ヨリ
林外務大臣宛

「ニカラガ」共和国ノ宣言加盟通知ノ件

(訳文)

第一〇六五号

蘭国公使 ジー、ラウドン

外務大臣 林伯爵閣下

以書翰致啓上候陳ハ「ニカラガ」共和国政府ハ千八百九十九年七月二十九日ノ二箇ノ海牙宣言即チ外包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ彈丸ノ使用ヲ禁止スルノ宣言及窺息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルノ宣言ニ加盟スヘキ旨千九百七年十月

十一日附ヲ以テ蘭国外務省ニ通知アリタル趣本國政府ノ命ニ依リ去ル十月二十七日附第九六七号拙翰ノ続トシテ閣下ヘ及御通報候

尙又「ニカラガ」国全権委員ヨリ和蘭國政府ニ宛テ前記加盟ノ件ヲ通知シタル去ル九月二十一日附公文並「クリザント、メヂナ」氏全権委任状ノ認證謄本各二部茲ニ差進候間御查收相成度右二部ノ内一部ハ日本帝國政府ノ分他ノ一部ハ韓國政府ノ分ニ有之候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百七年十一月二十八日東京ニ於テ

註 右了承ノ旨十二月十二日送第六〇号ヲ以テ
回答アリ

附 錄 萬国赤十字條約改正會議

一九七 明治三十九年七月九日

白国駐劄加藤公使ヨリ
林外務大臣宛

萬国赤十字改正條約送附ノ件

附屬書

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状
態改善ニ関スル條約

機密第五号

八月十六日接受

瑞西国ゼネヴァ府ニ於ル赤十字條約改正會議ハ本月五日其議事ヲ了リ翌六日ヲ以テ條約調印ヲ遂ゲ本官ハ本日当地帰任致候該會議事ノ經過並ニ決議ノ要項等ニ関シテハ追テ詳細可及具報候得共不取敢茲ニ新條約書写一通進達候間御查收相成度候

去六日ゼネヴァ最終ノ電信ニテ申進候通り帝國政府ノ意見ハ大底通過ヲ得タレトモ新條約第廿八條(別紙第十三頁)即我仮定案第廿七條類似ノ條項ニ対シテ日英兩國ノ外ハ參列委員一致ノ同意ヲ表シ大勢此ニ至リ如何トモスベカラス遂ニ本官ハ貴電第三号ノ御訓令ニ準シ帝國政府ハ這般直ニ陸軍刑法ニ本件ヲ規定スルコトヲ約シ難キニ付姑ク同條ヲ

附 錄 赤十字條約改正 一九七

保留シテ條約ヲ調印スベキ旨宣言シタルニ清國委員モ亦タ類似ノ理由ヲ述ヘテ之ヲ保留スルニ至リ候

露國ノ提案ニ係ル條約解釈ニ関スル一切ノ紛議ヲ海牙常設裁判所ニ提出スルコトヲ條約ニ規定スル問題ニ付テハ南米共和諸國及歐洲諸小邦ハ拳テ竊ニ贊助ノ色ヲ呈シタルモ英米獨逸等ノ列強首トシテ反對ノ意向ヲ示シタルタメ露國ハ頗ル難境ニ陥リ遂ニ獨國委員ハ本國政府ノ訓令ニ基キ最終議定書中ヘ平時ニ於テ條約解釈ニ付生シタル紛議ハ事情ト場合ノ許ス限り之ヲ海牙常設裁判所ニ提出スベキ冀望ヲ宣言スベシトノ修正案ヲ提起シタルニ露國委員ハ直ニ立テ之ニ同意セリ蓋シ獨逸等ハ露國ノ為ニ一活路ヲ開キ右ノ如キ殆無意味ノ仲裁案ヲ提起シタルニ外ナラス然ルニ右ハ海牙條約第十六條ニ規定セラレタル主旨ニシテ大体ニ於テ反對ノ余地ヲ存セザルモ本官ハ貴電第二号ノ御訓令ニ基キ斯ノ如キ冀望ヲ殊更議定書ニ宣言スルノ全然無益ナルコトヲ主張シタルトモ結局決議ノ際英國ヲ除クノ外ハ滿場一致ヲ

以テ独国案ニ同意スルニ立至候（別紙第十九、二十頁）
右申進候 敬具

明治三十九年七月九日

在白耳義国 特命全權公使 加藤恒忠（印）
外務大臣子爵 林 董殿

（附屬書）

（訳 文）

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル條約

独逸国普魯西国皇帝陛下、「アルジャンチヌ」共和国大統領閣下、
壤地利国「ボヘミヤ」国洪牙利国皇帝陛下、白耳義国皇帝陛下、
勃爾牙利国公使閣下、智利国大統領閣下、清国皇帝陛下、
公果独立国主権者タル白耳義国皇帝陛下、韓国皇帝陛下、
丁抹国皇帝陛下、西班牙国皇帝陛下、
亞米利加合衆国大統領、
伯刺西爾合衆国大統領、
墨西哥合衆国大統領、
仏蘭西共和国大統領、
大不列顛及愛蘭聯合王国兼印度国皇帝陛下、
希臘国皇帝陛下、「グッテマラ」共和国大統領、「ホンヅラス」共和国大統領、
伊太利国皇帝陛下、日本国皇帝陛下、
盧森堡国大公「ナッソー」公使閣下、「モン

テネグロ」国公使閣下、諸威国皇帝陛下、和蘭国皇帝陛下、
秘露共和国大統領、波斯国皇帝陛下、葡萄牙国及「アルガルヴ」皇帝陛下、羅馬尼亞国皇帝陛下、
全露西亜国皇帝陛下、塞爾比亞国皇帝陛下、
暹羅国皇帝陛下、瑞典国皇帝陛下、
端西聯邦政府、「ウルグエー」共和国大統領ハ共ニ其ノ力ノ及フ限り戦争ニ避クヘカラサル惨害ヲ軽減セムコトヲ冀望シ此ノ目的ヲ以テ戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関シ千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」ニ於テ約定シタル條規ヲ完成補修セムト欲シ之カ為新條約ヲ締結スルコトニ決定シ各各左ノ全權委員ヲ任命セリ

独逸国普魯西国皇帝陛下

瑞西国駐劄特命全權公使待從「コンセイエー、アンチーム、アクチュール」アド・ビュロー

隊軍少將男爵 ド・マントイフェル

衛生監陸軍軍医監 ドクトル・ウキラレ（少將相当）

「ボン」大学法学教授「コンセイエー、アンチーム、

ド、ジュスチス」「サンデック、ド、ラ、クローヌス」「ドクトル」ツオルン

「アルジャンチヌ」共和国大統領閣下

瑞西国駐劄特命全權公使 エンリク・ペー・モレノ

丁抹国皇帝陛下

陸軍衛生団長衛生部少將 ラウブ

西班牙国皇帝陛下

弁理公使「コント、ド、バゲール」シルヴェリオ・ド・バゲール・キ・コルシ

亞米利加合衆国大統領

元亞米利加合衆国陸軍次官 ウキリアム・カリ・サングー

海軍兵學校長海軍少將 チャーレス・エス・スベリー

陸軍檢察總官陸軍少將 ジョージ・ビー・ディヴィス

陸軍衛生部少將 ロバート・エム・オーレリー

伯刺西爾合衆国大統領

瑞西国駐劄代理公使「ドクトル」カルロス・レングルーベル・クロッパ

在瑞西国伯刺西爾国公使館附武官陸軍工兵大佐 ロベルト・トロムボウスキー・レイタオ・ダルメイダ

墨西哥合衆国大統領

陸軍少將 ホセ・マリア・ペレツ

仏蘭西共和国大統領

瑞西国駐劄特命全權大使 レヴォアル

仏国学士院会員、全権公使、外務省法律顧問、巴里法科大学教授 ルーイ・ルノール

豫備砲兵大佐 オリヴェキエー

陸軍二等軍医正 ボーザ

大不列顛及愛蘭聯合王国兼印度国皇帝陛下

陸軍少将 「ナイト、コンマンダー、オフ、セント、マイケル、エンド、セント、ジョージ」 「ナイト、コンマンダー、オフ、インヂヤン、エムパイヤー」 「コムパニオン、オフ、ゼ、バース」 「サージョン・チャーレス・アルダー」「キングス、カウンスル」 「ドクター、オフ、シヴィル、ロー」 教授 トーマス・アースキン・ホルランド
「コンパニオン、オフ、ゼ、バース」 「サー」 ジョン・ファルレー

陸軍中佐 「コンパニオン、オフ、ゼ、オーダー、オフ、セント、マイケル、エンド、セント、ジョージ」 「ローヤル、アーミー、メヂカル、コープ」 ウィルリアム・グラント・マクファーンソン

希臘国皇帝陛下

ベルヌ大学国際法教授 ミシエル・ケベッジー

「グワテマラ」 共和国大統領

諸威国皇帝陛下

陸軍衛生部大尉 ダーエ

和蘭国皇帝陛下

参事院議官退職陸軍中將 「ヨンクヘール」 ヨット・チェー・デン・ベール・ポール・チュゲール

陸軍一等軍医長大佐 アー・アー・ヨット・クワンニエル

秘露共和国大統領

在仏国秘露国公使館一等書記官 グスタヴ・オ・デ・ラ・フェンテ

波斯国皇帝陛下

仏国駐劄特命全権公使 サマド・カン・モムタツ・オス・サルタネー

葡萄牙国及「アルガルヴ」皇帝陛下

瑞西国駐劄特命全権公使 アルベルト・ドリヴェイラ
前衆議院議員 「リスボンヌ」 陸軍兵学校長 陸軍歩兵大佐 ジョゼ・ニコラウ・ラボソ・ポテルホ

羅馬尼国皇帝陛下

豫備陸軍大佐 「ドクトル」 サヘ・ステファネスコ

全露西亜国皇帝陛下

仏国駐劄代理公使 マヌエル・アロヨ
「ジエネヴァ」 居住 「ベルヌ」 駐在総領事 ヘンリー・ウィスワルド

「ボンヅラス」 共和国大統領

「ベルヌ」 駐在総領事 オスカル・ホエペル

伊太利国皇帝陛下

陸軍大佐 「グラン・オフィシエー、ド、ロルドル、ロワイヤル、デ、サン、モーリス、エ、ラザール」 侯爵 ロジエル・マウリジ・デ・カステル・マウリジ

陸軍衛生監衛生部少将 「コンマンドゥール、ド、ロドル、ロワイヤル、ド、ラ、クロンヌ、ヂタリー」 ジョヴァンニ・ランドネ

日本国皇帝陛下

白耳義国駐劄特命全権公使 加藤恒忠

盧森堡国大公 「ナッソー」 公殿下

白耳義国陸軍第四管区参謀長参謀大佐伯爵 ド・ツェルクラエス

「モンテネグロ」 国公殿下

露国駐劄瑞西国特命全権公使 エ・オヂエー

瑞西聯邦陸軍々医長、大佐 ミュールセツト

外務省常任顧問官 「コンセイエー、ブリヴェー」 ド・マルテンス

塞爾比亞国皇帝陛下

司法省書記官長 ミラン・セント・マルコウ・チャチ
陸軍省衛生部長 陸軍大佐 「ドクトル」 ソンデルマイエル

暹羅国皇帝陛下

仏国駐劄代理公使 プラン・ス・チャルーン

在仏国公使館参事官 コラヂオーニ・ドレーリ

瑞典国皇帝陛下

陸軍第二師団軍医長 セーレンセン

瑞西聯邦政府

露国駐劄特命全権公使 エ・オヂエー
瑞西聯邦陸軍々医長、大佐 ミュールセツト

「ウルグエイ」 共和国大統領

仏国駐劄代理公使 アレキサンドル・ヘロサ

因テ各全権委員ハ互ニ委任状ヲ示シ其ノ良好妥当ナルヲ認め以テ左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 傷者及病者

第一條 軍人及軍隊ニ公務上附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ

負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ其ノ国籍ノ如何ヲ問ハス之ヲ其ノ権内ニ交戦者ニ於テ尊重看護スヘキモノトス但シ病者及傷者ヲ敵ニ委棄スルノ已ムヲ得サルニ至リタル交戦者ハ軍事上ノ状況ノ許ス限り其ノ看護ヲ補助セシムムカメ衛生部員及衛生材料ノ一部ヲ病者傷者ト共ニ遺留スベシ

第二條 前條ニ依リテ与フル看護ノ外交戦者一方ノ傷者又ハ病者ニシテ他ノ交戦者ノ権内ニ陥リタル者ハ之ヲ俘虜トシ俘虜ニ関スル国際公法ノ一般規則ヲ適用ス

但シ交戦者ハ俘虜タル傷者病者ニ関シ有益ト認ムヘキ特例若クハ殊遇ノ條項ヲ相互ニ協定スルノ自由ヲ有シ特ニ左ノ件々ニ付キ協定ヲ為スノ権能ヲ有ス

一 戦闘後戦場ニ委棄サレタル傷者ヲ互ニ引渡スコト
一 交戦者ガ俘虜トシテ抑留シ置クラ欲セサル傷者又ハ病者輸送ニ堪ユルニ至リタル後若ハ全治後其本国ニ送還スルコト

一 中立国ノ承諾ヲ得タル上戦争ノ終了マテ留置スル條件ヲ以テ対戦国ノ傷者又ハ病者ヲ同中立国ニ引渡スコト

第三條 各戦闘後戦場ノ占領者ハ傷者ヲ搜索シ且掠奪及虐

第七條 衛生上ノ移動機関及固定營造物ガ害敵行為ノ為メニ使用セラル、トキハ其ノ保護ヲ失フヘシ

第八條 左記ノ事項ハ衛生上ノ移動機関又ハ固定營造物ガ第六條ニ依リテ保障セラレタル保護ヲ喪失スヘキ性質ノモノト看做サス

第一、移動機関又ハ固定營造物ノ人員ガ武装シ其武器ヲ自己若ハ傷者病者ノ防衛ノ為メニ使用スルノ事実

第二、武装看護人ノ在ラサルニ当リ正式ノ筆記命令ヲ携帯スル歩哨又ハ衛兵ヲシテ移動機関又ハ固定營造物ヲ守衛セシムルノ事実

第三、傷者ヨリ取上ケタルモ未タ所轄部署ニ引渡サレサル武器及薬莖ガ移動機関又ハ固定營造物内ニ発見セラレタルノ事実

第三章 人 員

第九條 傷者及病者ノ收容、輸送及治療並ニ衛生上ノ移動機関及固定營造物ノ事務ニ専ラ従事スル人員、軍隊附属ノ教法者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重保護セラルヘク敵手ニ陥リタルトキト雖俘虜トシテ取扱ハル、コトナカルヘシ

前項ノ規定ハ第八條第二号ノ場合ニ於テ衛生上ノ移動機

待ニ対シ傷者及死者ヲ保護スル措置ヲ執ルヘシ
右占領者ハ死者ノ埋葬又ハ火葬ガ其ノ屍体ヲ綿密ニ検査シタル上ニテ行ハル、コトニ注意スヘシ

第四條 各交戦者ハ死者ニ付キ発見シタル軍隊ノ認識票又ハ身分ヲ證明スヘキ記号及集収シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ成ルヘク速ニ其ノ本国官憲又ハ所屬陸軍官憲ニ送付スヘシ

交戦者ハ互ニ其ノ権内ニ在ル傷者及病者ノ留置、移動、並ニ入院及死亡ニ関スルコトヲ知悉スヘク又戦場ニ於テ発見セラレ或ハ衛生上ノ固定營造物及移動機関内ニテ死亡シタル傷者又ハ病者ノ遺留ニ係ル一切ノ私用品、有価物、書狀等ヲ本国官憲ヲシテ利害關係者ニ伝送セシムル為メ收集スヘシ

第五條 陸軍官憲ハ住民ノ慈恵心ニ訴ヘ之ニ応ジタル者ニハ特別ノ保護及一定ノ特典ヲ与ヘ其ノ監督ノ下兩軍ノ傷者病者ヲ收容看護セシムルコトヲ得ヘシ

第二章 衛生上ノ固定營造物及移動機関

第六條 衛生上ノ移動機関（即チ戦地軍隊ニ随伴スルモノ）及衛生勤務ノ固定營造物ハ尙交戦者ニ於テ之ヲ尊重保護スヘシ

関及固定營造物ノ守衛人員ニモ之ヲ適用ス

第十條 本国政府カ適法ニ認可シタル篤志救恤協会ノ人員ニシテ軍隊衛生上ノ移動機関及固定營造物ニ使用セラルル者ハ前條ニ掲ケタル人員ト同一ニ看做サルヘシ但シ該人員ハ陸軍ノ法律規則ニ服従スヘキモノトス

各国ハソノ責任ノ下ニ在リテ軍隊ノ衛生勤務ニ補助ヲ与フルコトヲ許可シタル協会ノ名称ヲ平時ヨリ又ハ戦争開始ノ際若ハ戦争中何レノ場合ニテモ之ヲ有効ニ使用スルニ先チ他ノ一方ノ国ニ通告スルヲ要ス

第十一條 中立国ニ於テ認可セラレタル協会ハ豫メ其ノ国政府ノ承認ヲ得タル上当該交戦者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ人員及衛生上ノ移動機関ヲシテ同交戦者ニ補助ヲ与フルコトヲ得ス

右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ其ノ使用ニ先チ之ヲ敵国ニ通告スヘシ

第十二條 第九條、第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ハ敵ノ権内ニ陥リタル後モ其ノ指揮ノ下ニ在リテ引続キ各自ノ職務ヲ執行スヘシ

前項人員ノ補助ガ既ニ缺クヘカラサルコトナキニ至リタ

ルトキハ軍事上ノ必要ト相容ル、時期及通路ニ從ヒ之ヲ所屬軍隊又ハ其本国ニ送還スヘシ

右人員ハ各自ノ私有ニ屬スル被服、器具、武器及馬匹ヲ持テ去ルヲ得ヘシ

第十三條 敵國ハ第九條ニ掲ケタル人員カ其ノ權内ニ在ル間自國軍隊ノ同一等級ノ者ニ給与スルト同額ノ給養及俸給ヲ之ニ支給スヘシ

第四章 材 料

第十四條 衛生上ノ移動機關ハ敵ノ權内ニ陥ルトキト雖其輸送方法並ニ護送人員ノ如何ヲ問ハス所屬材料ヲ保有スヘシ、材料中ニハ輓馬ヲモ包含スルモノトス

但シ所轄陸軍官憲ハ傷者及病者看護ノ為メ該材料ヲ使用スルノ權能ヲ有スヘク其ノ材料ノ還付ハ衛生人員ノ為ニ定メラレタル條件ニ依リ且ツ成ルヘク之ト同時ニ行ハルヘシ

第十五條 固定營造物ノ建物及材料ハ戰爭ノ法規ニ從フト雖傷者病者ノ為ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ転スルコトヲ得ス

但シ作戰部隊ノ指揮官ハ重大ナル軍事上ノ必要アルトキ

衛生勤務ニ屬セサル軍隊ノ車輛ハ其ノ挽馬ト共ニ捕獲スルヲ得ヘシ

普通人民及徴發ニ依リテ得タル各種ノ輸送物件ハ國際公法ノ通則ニ從フヘキモノトス

同物件中ニハ後送ノ為ニ使用セラル、鐵道材料及船舟ヲモ包含スルモノトス

第六章 特別記章

第十八條 瑞西國ニ對シ敬意ヲ表スル為諸聯邦國旗ノ着色ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋章ハ軍隊衛生勤務上ノ特別記章トシテ維持セラルヘシ

第十九條 前條ノ記章ハ所轄陸軍官憲ノ認許ニ依リ衛生勤務ニ關係スル旗、臂章及一切ノ材料ニ表出セラルベシ

第二十條 第九條第一項、第十條及第十一條ニ依リ保護セラル、人員ハ所轄陸軍官憲ヨリ交付シ且其ノ印章ヲ捺シタル白地赤十字ノ臂章ヲ左腕ニ装着スヘク陸軍ノ衛生勤務ニ従事スル人員ニシテ軍服ヲ着セサル者ハ認識證明書ヲ併セ携帯スヘシ

第二十一條 本條約ニ依リテ尊重セラル、衛生上ノ移動機關及固定營造物ニシテ陸軍官憲ノ認許ヲ受ケタル者ニ非サレハ本條約ノ記章旗ハ之ヲ掲揚スルコトヲ得ス、右記

ハ豫メ固定營造物内ニ在ル傷者及病者ノ安全ヲ謀リタル後便宜之ヲ処分スルコトヲ得ヘシ

第十六條 本條約ニ定メタル條件ニ從ヒ條約上ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ材料ハ私有ノ財産ト看做サレ之カ為メ戰爭ノ法規慣例ニ基キ交戦者ニ屬スル徴發權ニ依ルヲ除クノ外如何ナル場合ニ於テモ尊重セラルヘシ

第五章 後送機關

第十七條 後送機關ハ左ノ特別規定ニ依ルノ外衛生上ノ移動機關トシテ取扱ハルヘシ

第一、後送機關ヲ遮断スル交戦者ガ軍事上ノ必要アル場合ニハ該後送機關ノ收容シタル傷病者ヲ引受ケタル後之ヲ解カシムルコトヲ得ヘシ

第二、前号ノ場合ニ於テ第十二條ニ規定サレタル衛生人員送還ノ義務ハ正式ノ筆記命令ヲ携帯シテ輸送又ハ後送機關ノ護衛ニ任スル一切ノ軍人軍屬ニ及ブベシ

第十四條ニ規定シタル衛生材料還付ノ義務ハ特ニ後送ノ為ニ組織セラレタル鐵道列車及内地航行ノ船舟並ニ衛生勤務ニ屬スル普通ノ車輛、列車及船舟ノ裝置材料ニ適用セラルヘシ

章、旗ハ該編成又ハ營造物所屬交戦者ノ國旗ト共ニ掲揚スヘシ

但シ敵ノ權内ニ陥リタル衛生上ノ移動機關ハ其ノ地位ノ繼續スル間赤十字旗ノ外他ノ國旗ヲ掲揚スヘカラス

第二十二條 第十一條ニ規定シタル條件ニ依リ其ノ勤務ヲ補助スルノ許可ヲ得タル中立國ノ衛生上ノ移動機關ハ本條約ノ記章旗ト共ニ所屬交戦者ノ國旗ヲ掲揚スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ衛生上ノ移動機關ニモ之ヲ適用ス

第二十三條 白地ニ赤十字ノ記章及「赤十字」若ハ「ジェネヴァ十字」ナル称号ハ平時ト戰時トヲ問ハス本條約ニ依リテ保護セラル、衛生上ノ移動機關及固定營造物人員並ニ材料ヲ保護シ又ハ標榜スル為ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七章 條約ノ適用及執行

第二十四條 締盟國中ノ二國又ハ數國間ニ戰爭アル場合ニ限リ締盟國ハ本條約ノ規定ヲ遵守スルノ義務アルモノトス此規定ヲ遵守スルノ義務ハ交戦國ノ一カ本條約ノ記名者ナラサルトキヨリ消滅スルモノトス

第二十五條 交戦軍ノ司令長官ハ各其ノ本國政府ノ訓令ニ

随ヒ且本條約ノ綱領ニ準拠シ前諸條ノ執行ニ関スル細目並ニ規定漏ノ事項ヲ補足処理スヘシ

第二十六條 記名国政府ハ本條約ノ規定ヲ其ノ軍隊及特ニ保護セラルル人員ニ教示シ且之ヲ国民ニ知悉セシムルガ為メ必要ナル手段ヲ執ルヘシ

第八章 濫用及違反ノ禁制

第二十七條 記名国政府ニシテ其ノ現行法制完全ナラサルモノハ本條約ニ依リ權利ヲ享有スルモノ以外ノ個人若ハ協會ニ於テ「赤十字」又ハ「ジェネヴァ十字」ナル記章若ハ名称ヲ使用シ就中商業上ノ目的ヲ以テ製造標又ハ商標ノ方法ニ依リ之ヲ用ユルコトヲ常ニ防止セムカ為メ必要ナル手段ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法府ニ提案スヘキコトヲ約ス

前項ニ規定シタル記章若ハ名称ノ使用禁止ハ各国ノ法制ニ依リテ定メラレタル時期ヨリ其ノ効力ヲ生スヘク遅クモ本條約實施後五年以内ニ其効力ヲ生スヘシ、本條約實施後ハ同禁止ニ抵触スル製造標若ハ商標ノ使用ヲ以テ法トス

第二十八條 記名国政府ニシテ其ノ陸軍刑法不完全ナル場合ニハ戰時ニ於テ軍隊ノ傷者及病者ニ對スル個人的掠奪

ニ開会シタル萬国会議ニ代表者ヲ派遣シタル諸国及該萬国会議ニ代表者ヲ派遣セサルモ千八百六十四年ノ條約ニ記名シタル諸国ニ依リ本年十二月三十一日マテニ記名セラレ得ルモノトス

千九百六年十二月三十一日マテニ本條約ニ記名セサル諸国ハ其ノ後ニ至リ之ニ加盟スルノ自由ヲ有スヘシ、其ノ加盟ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ通告シ同政府ヨリ更ニ之ヲ各締盟国ニ通知スヘキモノトス

他ノ諸国モ亦同一ノ形式ニ依リ加盟ヲ請求スルヲ得ヘシ但シ其請求ハ瑞西聯邦政府ニ通告ヲ為シタル日ヨリ一年ヲ經過スルモ締盟国ノ執レヨリモ同政府ヘ異議ヲ申入レサルトキニ限り始メテ其ノ効力ヲ生スヘキモノトス

第三十三條 各締盟国ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有ス、其廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シタル後一年ヲ經過スルニ非サレハ効力ヲ生スルコトナシ、瑞西聯邦政府ハ右通告ヲ爾余ノ締盟国ニ直チニ通知スヘシ前項ノ廢棄ハ之ヲ通告シタル国ニ對シテノミ其効力ヲ生スルモノトス

右證拠トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ千九百六年七月六日「ジェネヴァ」ニ於テ本書一通ヲ作り

及虐待行為ヲ禁制シ且本條約ニ依リテ保護セラレサル軍人若ハ個人ノ為シタル赤十字ノ記章旗及臂章ノ濫用ヲ陸軍記章ノ侵犯トシテ処罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法府ニ提案スヘキコトヲ約ス

記名国政府ハ遅クモ本條約批准後五年以内ニ瑞西聯邦政府ヲ經テ右禁制ニ関スル規定ヲ互ニ相通告スヘシ

總 則

第二十九條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ批准書ハベルヌ府ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作り其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ各締盟国ニ交付スヘシ

第三十條 本條約ハ各締盟国其ノ批准書ヲ提供シタル日ヨリ六ヶ月ノ後其ノ国ニ對シテ効力ヲ生スベシ

第三十一條 正当ニ批准セラレタル本條約ハ締盟国間ノ關係ニ於テ千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ代ルヘキモノトス

千八百六十四年ノ條約ハ之ニ記名シタルモ本條約ヲ批准セサル諸国間ノ關係ニ付テハ引續キ効力ヲ有スヘキモノトス

第三十二條 本條約ハ千九百六年六月十一日「ジェネヴァ」

之ヲ瑞西聯邦政府ノ記錄ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付ス

赤十字條約改正記名国並ニ列席委員

獨逸国

フオン・ビュロー (印)

フライヘール・フオン・マントイフェル (印)

ウキラレ (印)

ツオルン

「アルジャンチヌ」共和国

エンリク・ペー・モレノ (印)

フランシスコ・モリナ・サラス (印)

壤地利洪牙利国

フライヘール・フオン・ハイドレル (印)

政府ノ承認ヲ留保シテ

白耳義国

伯爵・ジエー・ド・ツエルクラエス (印)

勃爾牙利国

ドクトル・ルウセフ (印)

大尉シルマノフ (印)

智利共和国	(印)
アグスチン・エドワーズ	(印)
清 国	(印)
陸徴祥	(印)
公果国	(印)
伯爵・ジエー・ド・ツエルクラエス	(印)
韓 国	(印)
加藤恒忠	(印)
丁抹国	(印)
ハー・ラウブ	(印)
西班牙国	(印)
伯爵・シルヴェリオ・ド・バゲール	(印)
亜米利加合衆国	(印)
ウキルリヤム・カリィ・サンガー	(印)
シー・エス・スベリー	(印)
ジョージ・ビーデヴィス	(印)
アール・エム・オーレリー	(印)
伯刺西爾合衆国	(印)
シー・レングルーベル・クロッフ	(印)

エッチ・ウキスワルド	(印)
「ボンヅラス」共和国	(印)
オスカル・ホエベル	(印)
伊太利国	(印)
マウリジ	(印)
ランドネ	(印)
日本国	(印)
加藤恒忠	(印)
盧森堡	(印)
伯爵・ジエー・ド・ツエルクラエス	(印)
「モンテネグロ」国	(印)
エ・オデエー	(印)
陸軍大佐・ミュールセット	(印)
諸威国	(印)
ハンス・ダーエ	(印)
和蘭国	(印)
デン・ベール・ポールチュゲール	(印)
クワンイエル	(印)
秘露国	(印)
グスタヴォ・デ・ラ・フェンテ	(印)

陸軍大佐ロベルト・トロムボウス	(印)
キー・レイタオ・ダルメイダ	(印)
墨西哥合衆国	(印)
ホセ・エム・ペレツ	(印)
仏蘭西国	(印)
レボアル	(印)
エル・ルノール	(印)
エス・オリヴキエー	(印)
エー・ボーザ	(印)
大不列顛及愛蘭国	(印)
ジョン・シー・アルダー	(印)
チー・イー・ホルランド	(印)
ジョン・ファルレー	(印)
ウキルリアム・グラント・マクファアソン	(印)
希臘国	(印)
ミシエル・ケベッジ	(印)
「グワテマラ」共和国	(印)
マヌエル・アロヨ	(印)

第二十三條
第二十七條
第二十八條
ヲ留保ス

政府ノ承認
ヲ留保シテ

波斯国	(印)
モムタツ・オス・サルタネー・エム・サマド・カン	(印)
葡萄牙国	(印)
アルベルト・ドリヴェイラ	(印)
ジョゼ・ニコラウ・ラボソ・ボテルホ	(印)
羅馬尼亞国	(印)
ドクトル・サヘ・ステファネスコ	(印)
露西亞国	(印)
マルテンス	(印)
塞爾比亞国	(印)
ミラン・セント・マルコウキッチ	(印)
ドクトルローマン・ソन्दルマイエル	(印)
暹羅国	(印)
チャルーン	(印)
コラチオーニ・ドレーリ	(印)
瑞典国	(印)
オロフ・セーレンセン	(印)

第十八條
ヲ留保ス

瑞西国

エ・オヂエー

(印)

大佐・ミュールセツト

「ウルグエイ」共和国

アー・ヘロサ

(印)

一九八 明治三十九年八月十二日

白国駐劄加藤公使ヨリ
林外務大臣宛

萬国赤十字條約改正會議報告書送附ノ件

附屬書 同前報告書

機密第九号

九月十八日接受

七月九日附機密第五号信ヲ以テ本官赤十字條約改正會議參列ノ件ニ付新條約書写相添略及具申置候処茲ニ該會議參列報告書一冊差進候間御覽相煩度此段申進候 敬具

明治三十九年八月十二日

在 白 特命全權公使 加藤恒忠 (印)

外務大臣子爵 林 董殿

追テ赤十字會議事務局ヨリ議事録未送ニ付右到着次第可

及追送候尙又海陸軍兩大臣へハ両省専門委員ヨリ別紙報告書各一通今便送附ノ筈ニ有之候処右兩件申添候也

(附屬書)

赤十字條約改正會議報告書

本委員等

明治三十九年六月十一日ヨリ瑞西国「ゼネヴァ」府ニ於テ開設アリタル萬国赤十字條約改正ノ會議ニ帝國委員トシテ參列仰付ラレタルニ付テハ右會議ニ先チ一同「ゼネヴァ」府ニ到着シ同日ヨリ七月六日マテ二十六日間ノ會議ニ列席セリ該會議ニ於ケル議事及決議ノ摘要左ノ如シ

第一、開會式及議事規則ノ決定

六月十一日午後四時ヨリ大学會堂ニ於テ開會式アリ瑞西国大統領「ルイ、フォルレー」氏議長席ニ着キ瑞西聯邦ノ名義ニテ赤十字條約締盟國中三十七ヶ国カ今回ノ會議ニ代表者派遣ノ好意ヲ謝シタルト共ニ赤十字條約ノ成立及改正ニ関スル沿革ヲ説キテ開會ヲ宣言シ次テ「ゼネヴァ」州參事會長「アンリー、ファジー」氏ハ「ゼネヴァ」官憲ヲ代表シ列國委員歡迎ノ演説ヲ為シ之ニ對シテ仏國委員ノ首席タル瑞西国駐劄仏國大使「ルヴォアル」氏ハ列國委員一同ノ名

義ヲ以テ謝辭ヲ述べ大統領ハ列國委員ニ於テ今回會議ノ議長ヲ選定スベキコトヲ告ケ仏國大使ハ列國委員ヲ代表シ瑞西国首席委員タル「オーヂエー」氏(露國駐劄全權公使)ヲ議長ニ推選スルノ發言ヲ為シ一般ノ喝采中ニ大統領ハ議長席ヲ同氏ニ譲リ「オーヂエー」氏ハ着席ノ上議長ニ推選セラレタル列國委員ノ好意ヲ謝スルト共ニ左ノ趣旨ノ演説ヲ為セリ

戰場ニ於ケル病傷軍人ニ對スル救護ハ人種政略又ハ宗教如何ニ關係ナキ人類秩序ノ問題ニ屬ス戰爭ハ人類社会ニ必要缺クベカラザルト為ス者アリ又畏ルベキ人類ノ災害ナリト説ク者アレトモ一般ノ人情ハ漸次ニ國民間ノ爭議ヲ戰爭ナル極端手段ニ依ラスシテ解決セントスルノ傾向ヲ生シ八年前既ニ各文明國ハ一部兵備ノ緊縮仲裁ヲ判ノ手續及戰爭ノ法規慣例ヲ查覈スル為メ會合ヲ催シ以來年々仲裁ヲ判ニ関スル多數條約ノ締結ヲ見ルノ事實ハ幸福ナル平和ヲ希ヒ得ルニ至ルベキ新光明ナラサルヲ得ス蓋シ戰爭ノ存在ハ尙ホ事實ナリトスルモ今日ニ於テハ其実行ノ方法ニ付昔時トハ全ク其趣ヲ異ニシ千八百六十三年十月「ゼネヴァ」ニ開會シタル會議ニ於テ救護団体ヲ諸國ニ組織シ其翌年八月「ゼネヴァ」條約ノ締結ヲ

リ同條約ハ千八百六十六年埃伊普三國間ノ戰爭ニ實踐セラレテ其ノ缺點ヲ發見シ既ニ千八百六十八年間條約改正ノ列國會議ヲ開會シタルモ同條約ノ批准ニ先チテ普仏戰爭ノ起リタルハ赤十字條約ニ對シテ大打撃ヲ与ヘタルモノトス然レトモ同條約ニ對スル一般ノ感情ハ依然好良ナルコトヲ失ハサリシナリ

現今ニ於テハ地球上四十箇國カ赤十字條約ニ加盟シ居リテ文明諸國ノ全体ハ此原則ヲ承認シ居ルモノト云フヲ得ベシ人類全体ノ法規トシテ同條約ハ不完全ナルベキ所アルモ之ヲ完成シ得ベカラサルニ非ス又世人ノ經驗ハ確ニ必要ナル修正ヲ之ニ加ヘ得ベシ今回瑞西国政府ノ諸氏ヲ招待シタルハ全ク文明及人情進歩ノ此事業ニ外ナラザルカ故ニ公正一致ノ精神ヲ以テ為シ得ル限り之ヲ完全ナル新法規ト為スコトニ尽力アラントヲ望ムト同時ニ從來ノ戰爭ニ於テ數千ノ家族及不幸者カ既ニ其德沢ニ浴シタル如ク將來ノ戰爭ニ於ケル病傷者モ諸氏ノ誠心正意ナル此事業ヲ感謝スルナラン

右演説後議長ハ赤十字事業ノ大功勞者ナル「モアニエー」氏ヲ本會議ノ名譽議長ニ指名シ滿場喝采ノ中ニ同氏ハ議長

ノ右席ニ着席シ次テ議長ハ翌日ノ会場及時刻ヲ宣言シテ閉会セリ

翌十六日午後市政庁 (Hotel de Ville) ニ於テ総会第一回ヲ開キ (爾後會議ハ總テ同政庁内ニ開会ス) 名譽議長「モアニエー」氏ノ演説アリタル後議長ハ書記長及書記ヲ紹介シ瑞西国第二委員「ブアンサン」氏ヲ副議長ニ推選シテ満場ノ同意ヲ得次テ今回會議ニ列席シタル三十七箇国代表者ヲ点呼シテ各国首席委員ヨリ他ノ自国委員ヲ議場ニ紹介セリ (土耳其国ヨリ委員ヲ派遣セサリシハ赤十字記章ヲ改正スベキ條件ヲ以テニ非サレバ招待ニ応セスト為シタルニ在リト云フ) 其参列国及委員數ハ左ノ如シ

参列国	委員數	参列国	委員數
独逸国	四名	アルゼンチン国	二名
埃 甸 国	四名	白 耳 義 国	二名
ブルカリー国	二名	智 利 国	二名
清 国	三名	金 剛 国	白耳義委員代表
韓 国	日本委員代表	丁 抹 国	一名
西班牙国	三名	北米合衆国	五名
伯 爾 西 国	二名	墨 西 哥 国	一名

雖票決ニ付テハ各国共ニ一票ヲ有スルニ止ルモノトス投票ハ代表国ノ「アルハベツト」順ニ從ヒ指名点呼ニ依リ之ヲ行フ

一国ノ委員団ハ他国ノ委員団ニ依リ自己ヲ代表セシムルコトヲ得ス

第三條 會議ノ條文議事録並ニ委員ノ審査ニ付スベキ提議ノ文章ニハ仏国語ヲ使用スベシ

第四條 「ゼネヴァ」條約ノ改正ニ關スル一切ノ提議ハ之ヲ討論スルニ先チ書面ニ認メ議長ニ提出シ印刷シテ配布セラルヘキヲ原則トス

後ニ修正ヲ加フルノ腹案ヲ以テ作成スル意見ニ付テモ亦同シ

第五條 總會討論ノ後其審査セムトスル諸問題ヲ分科委員會ノ豫備的審査ニ付スルコトヲ得

分科委員會ハ要スレハ其事務局及報告記者ヲ選定スベシ分科委員會ノ提出シタル箇條ハ印刷ニ付シ本會議ノ總會ニ提出スルニ先チ之ヲ各委員ニ配布スヘシ

第六條 本會議ノ總會及分科委員會ノ議事録ハ議事ノ摘要ヲ記述シ票決ノ結果ト共ニ討論中ニ於ケル一切ノ提議ヲ掲載スルノ外討論ニ上リタル議論ノ要領ヲ記載スルモノ

仏 蘭 西 国	四名	英 吉 利 国	五名
希 臘 国	一名	ギリテマラ国	二名
ホンダラス国	一名	伊 太 利 国	三名
日 本 国	五名	ルキサンブルク国	白耳義委員代表
モンテネグロ国	瑞西委員代表	ニカラガ国	ホンダラス委員代表
諸 威 国	一名	和 蘭 国	二名
秘 魯 国	一名	波 斯 国	一名
葡 萄 牙 国	二名	ルーマニヤ国	二名
露 西 亞 国	七名	サンサルヴァトル国	二名
セルビア国	二名	暹 羅 国	二名
瑞 典 国	一名	瑞 西 国	三名
ユルグエー国	一名		

点呼ノ後議長ハ左記議事規則ヲ討論ニ付シテ之ヲ決議セリ

議事規則

第一條 本會議ハ千八百六十四年八月二十二日「ゼネヴァ」條約締盟国ノ全權ヲ有スル總委員ニ依リ之ヲ組織ス

第二條 委員団ニ屬スル各員ハ總テ討論ニ参加シ得ベシト

トス

各委員ハ其公然ノ宣言ニ關スル詳細ノ掲載ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但シ此場合ニ於テハ閉会后直ニ其全文ヲ書記ニ提出スルヲ要ス

本會議ノ議事録ハ之ヲ決定スルニ先チ其承認ヲ得ル為メ

各委員ニ配布スベシト雖之ニ關スル説明ヲ与フルコトナシ第七條 採用シタル箇條ハ本會議ニ依リ總括シテ決定的ニ

之ヲ票決スルニ先チ條約起草委員ノ手ニ附スヘキモノトス

第八條 本會議ノ議事録及條文ノ綴込ハ書記局ノ注意ニ依リ會議終局後ニ非サレバ公ニ為スベカラス

第二、分科委員會ノ設立

今回ノ會議ニ於テ瑞西国政府ハ改正條約ノ成案ヲ提出スルコトナク豫テ同国政府ヨリ締盟各国政府ニ配布シ置キタル左記十四問題ヲ四種ニ分チ其各種ニ付之ヲ審査スヘキ分科委員會四箇ヲ設ケ各分科委員會ニ於テハ其議長、副議長、報告員及理事各一名ヲ置キテ其分担ノ綱目ヲ討論決定スヘキコトヲ議長ヨリ提議シ討論ノ末之ニ一決セリ其瑞西国政府ノ提出シタル十四問題及各分科委員會ノ分担討究スベキ綱目ハ左ノ如シ

千八百六十四年八月二十二日「ゼネヴァ」條約改正ノ
目的ヲ以テ集合スベキ國際會議ニ於テ審査スベキ諸問
題

第一問 「ゼネヴァ」條約ハ傷病軍人ヲ其国籍如何ニ拘ハ
ラス收容及救護スヘキ原則ヲ設定セリ（第六條第一項）
戰鬪力ヲ失ヒタル軍人ヲ虐待及掠奪ヨリ保護スヘキコト
ヲ之ニ追加スルノ必要ナキヤ

又左ノ事項ヲ規定スヘキカ

（イ） 死者ヲ埋葬又ハ火葬スルニ先テ其死体ヲ綿密ニ検査
スルコト

（ロ） 一切ノ軍人ハ其誰何ナルヤヲ確メ得ヘキ標識ヲ携帯
スヘキコト

（ハ） 敵國ノ為メ收容セラレタル死者傷者及病者ノ名簿ハ
同國ヨリ成ルヘク速ニ其本國ノ官憲若ハ軍隊ニ送附スベ
キコト

第二問 傷者及病者ハ戰爭ニ關スル一般法規ノ下ニ立テ其
敵國ノ權内ニ陥リタルトキハ俘虜ト見做サルヘキ原則ヲ
設定スルコト又病者及傷者ノ還送ニ關スル各規定（第六
條第二項第三項及第四項）ヲ削除スルコト

「ヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル海牙條約第七條參
照）

第七問 衛生部員ニシテ自己正當防衛以外ニ敵對行為ヲ為
シタルトキハ同人ニ關スル中立資格消滅スルコトヲ規定
スルコト但シ兵器ノ携帯ハ是等人員ニ對シテ之ヲ禁セス
（以上衛生部員ニ關スル五問ハ第二分科委員會ノ担当）

第九問 條約第一條ニ於テ戰地病院及陸軍病院ハ中立ト
看做サレ之ニ病者及傷者ノ存在スル間交戦者ニ依リ保護
尊敬セララルヘキコトヲ規定セリ

此規定ヲ左ノ意味ニ變更スルコト相当ナラスヤ即チ戰地
病院（千八百六十八年ノ會議ニ於テ之ニ与ヘタル解釈
ニ從ヒ）野戰病院其他ノ仮設營造物ニシテ病者傷者ヲ收
容スル為メ戰地ニ於ケル軍隊ニ隨從スルモノハ一切ノ場
合ニ於テ中立ト看做サルヘク從テ若シ敵國ノ權内ニ陥リ
タル場合ニ於テ病者傷者ノ救護ニ付必要ナキニ至リタル
トキハ敵國ヨリ之ヲ其本國軍隊ニ還送スヘキコト
又同條ニ依レハ該病院若ハ病院ニシテ兵力ニ依リ護衛
セラレタルトキハ其中立ヲ失フトアリ

右ニ付救護營造物ニ關スル中立ハ敵ノ之ヲ戰鬪ノ目的ニ
使用スル場合ニ消滅スルコト且衛兵又ハ番兵ヲ以テ之ヲ

（以上病傷者及死者ニ關スル二問ハ第一分科委
員會ノ担当）

第三問 條約ニ依リ保護スヘキ衛生部員ノ種類（第二條）
ヲ一層完全ナル方法ヲ以テ列挙スルコト便宜ナラスヤ又
特志救護會ノ人員ヲ記載シ其人員ノ中立タルヘキ條件ヲ
決定スルノ要ナキヤ

第四問 條約第二條ニ依レハ衛生部員及宗教者ハ其本務ニ
從事シ且收容救護スヘキ傷者ノ存在スル間ニ限り中立ノ
利益ヲ享有スヘキコトヲ為シ居レトモ彼等ハ一切ノ事情
ノ下ニ於テ不可侵ナリト宣明セラルヘキモノナラスヤ
第五問 衛生部員ハ敵ノ占領後ニ於テモ敵國軍衛ノ指揮ノ
下ニ其勤務ヲ繼續スヘキコトヲ規定スルコト又病者傷者
ニ對スル其勤務ノ必要止ミタルニ至ルトキハ該軍衛ハ本
人ノ請求ニ応シ之ヲ還送スヘク若シ其還送ニシテ軍隊行
動ニ妨害ナキ限リハ最近ノ徑路ニ依リ本國軍隊ノ前哨ニ
送附スヘシ其退去ニ當リ是等人員ハ其私有ノ物件及治療
器具ヲ携帯スヘシ

第六問 交戦國ハ其權内ニ陥リタル衛生部員ニ對シ其俸給
全額ノ支給ヲ保障スヘキコトヲ規定スルコト（「ゼネ

保護スルノ事實ハ其特權ヲ剝奪セサルコトト為スコト好
良ナラスヤ又衛兵又ハ番兵ハ捕獲ノ場合ニ俘虜ト看做サ
ルヘキカ

第十問 固有固定病院ノ建物及材料ハ戰爭法規ノ下ニ立ツ
ヘシト雖モ之ニ存在スル傷病兵ニ必要アル間ハ其使用ヲ
變更スヘカラサルコトノ規定ヲ新條約中ニ入ルヘキニ非
サルヤ否ヤヲ討究スルコト

第十一問 公認セラレ許可セラレタル救護會ノ材料ハ一切
ノ場合ニ於テ私有財産ト看做サルヘキコトヲ規定スルノ
相当ナルヤ否ヤヲ討究スルコト

（以上衛生材料ニ關スル三問ハ第三分科委員會ノ担当）
第八問 戰場ニ於ケル住民ニ關スル規定（第五條）ヲ削除
スルコト

第十二問 白地ニ赤十字ヲ唯一ナル特別ノ記章トシテ（條
約第七條）保持スヘキヤ又ハ例ヘハ土國ハ赤新月ヲ赤十
字ニ代用シタル如ク非耶蘇教國ニ付テハ例外ヲ許スコト
相当ナルヤヲ知得スヘキコトヲ討究スルコト

第十三問 各締盟國ハ條約ニ對スル一切ノ違犯ヲ処罰スル
ニ必要ナル立法手段ヲ採ルヘキコトヲ規定スルノ至当ナ
ルヤ否ヲ討究スルコト

第十四問 終ニ各締盟国ハ條約及其違反ニ科スヘキ罪ヲ軍隊及人民ニ周知セシムヘキ責ニ任スルノ規定ヲ新條約中ニ入ルルノ相当ナルヤ否ヲ討究スルコト

(以上記章濫用法制等ニ關スル五問ハ第四分科委員会ノ担当)

右四分科委員会ノ委員ハ列国委員団中ヨリ各自ノ専門ニ応シ之ヲ選定シテ首席委員ヨリ議長ニ通告スル等ナリシモ同分科委員会ヲ通シ其討究事項ハ軍事上衛生上及公法上ノ問題ニ悉ク關係ヲ有シ其間ニ専門委員ノ適否ヲ區別スヘカヲサリシカ故ニ本委員等ハ一同ヲ各分科委員会ノ委員トシテ通告セリ

六月十三日午後三時開会シタル總會第二回ニ於テ四分科委員会ノ議長以下ヲ選定シタルニ其結果ハ左ノ如シ

第一分科委員 (病傷者及死者)

議長男爵「マウンントウフェル」(独国)

副議長「ホルランド」(英国)

報告員「オリヴィエー」(仏国)

第二分科委員会 (衛生部員)

議長「シュツキング」(埃国)

ヨリ各分科委員会ハ毎日其會議ヲ開キ六月二十六日ニ於テ悉ク閉会ヲ見ルニ至レリ

第三、帝國委員ノ態度

今回ノ會議ニ於テ帝國政府ハ赤十字條約仮定改正案ヲ本委員等ニ交付セラレ其趣旨ヲ貫徹スヘキ旨ノ訓令アリ又英國政府モ同條約改正仮定案ヲ同国委員ニ交付シ芳賀秋山両委員カ英國通過ノ際同国委員ヨリシテ今回ノ會議ニ於テ両同盟国委員ハ互ニ意見ノ交換ヲ為シタキ旨懇話アリタルニ依リ帝國政府ノ仮定案ハ之ヲ英國委員ニ内示シ又英國委員モ同国仮定案ヲ會議ニ提出スルニ先チ本委員等ニ内示セリ而国ノ改正案ハ大体ニ於テ意見ノ一致スル所多カリシト同時ニ英國案ハ其規定ノ細密ニ失シ実行上却テ不得策ナル箇條少カラサリシカ故ニ本委員等ハ分科委員会ノ開会ニ先チ互ニ誤解ヲ避クル為帝國案ノ仏訳ニ掲載ノ條項中之ヲ規定スルコトハ帝國政府ノ真意ニ非サルノ諸点ヲ指摘スルト共ニ英國案中不可ナリト思考シタル諸点ヲ懇切ニ英國委員ニ指摘説明シ置キ會議中両国委員ハ互ニ是ナリト認メタル彼我ノ提議ヲ賛成援護スルコトヲ勉メタリ日露戰爭中帝國軍隊ハ連戰連捷ナリシト同時ニ戰地ニ於ケル病傷者ニ對スル我軍隊ノ行動ハ確實ニ赤十字條約ノ規定ヲ遵守セラレタルノ

副議長侯爵「モリジ」(伊国)

報告員「ボーザー」(仏国)

第三分科委員会 (衛生材料)

議長「サンガー」(米国)

副議長「マクファーンソン」(英国)

報告員「ケベヂー」(希国)

第四分科委員会 (記章濫用法制)

議長「マルテンス」(露国)

副議長加藤委員 (日本)

報告員「ルノール」(仏国)

(理事人名略ス)

右ノ如ク分科委員会ノ議長及副議長ハ英米独伊埃露及我國ノ七大国ヨリ之ヲ選定シ報告員ハ悉ク仏国委員及「ルノール」氏ノ門弟ナル希臘委員之ニ當レリ就中英國委員ハ当初ヨリ同盟国タル我國委員中ヨリ分科委員会ノ議長又ハ副議長ヲ出サント尽力シ加藤委員ノ當選ハ「ホルランド」氏ノ推撰ニ依リタルモノトス

以上ニ依リ各分科委員会ニ於ケル委員及役員撰挙決定セルヲ以テ總會ハ翌日ヨリ之ヲ中止シ各分科委員会ニ於ケル討究決定ノ報告ヲ俟テ再ヒ開会スヘキコトト為シ六月十四日

事實ハ列国委員一般ニ認メ居タルカ如ク今回會議ノ經過円滑ニシテ列国委員共ニ赤十字條約ノ有効ニ実行セラレ得ヘキコトヲ認メ熱心ニ良好ナル改正條約ヲ締結セムトノ意嚮ヲ有シ居タルハ全ク日露戰爭中我軍隊ノ行動其宜シキヲ得タルノ結果ナリトノ贊辭ハ瑞西国及他諸国委員等ヨリ屢之ヲ耳ニシ又米国委員ノ如キモ日本ハ戰地ニ於ケル最近ノ實驗ヲ有スルカ故ニ其提議ハ之ヲ重視スヘシト説キ英國委員モ本委員等ニ對シ赤十字條約ニ關スル最近ノ經驗ヲ有スルハ両国ノミナリトノ事實ヲ誇稱シ居タルノミナラス露国首席委員「マルテンス」氏モ同国外務省顧問及戰爭中露国俘虜情報局長官トシテ我國ノ正當ナル行為ヲ親シク目撃シタル所アルヘク同国委員中「ヒュベネ」氏ハ旅順降伏ノ際我軍ノ手ニ陥リ「グチコフ」氏モ奉天戰爭ニ於テ我軍ノ手中ニ入りタルモノニシテ是又戰爭中我國ノ正當ナル行為ヲ現實ニ認メタル所ナルカ故ニ此三名ハ往々議場ニ於テ戰爭中日本軍隊ノ正當ナル行為ヲ引證シタリ故ニ本委員等ヨリ進ンテ戰爭中ニ於ケル我軍隊ノ正當行為ヲ吹聴スルノ必要ナク当初若シ露国委員ヨリシテ我國ノ行為ニ付批難ニ類スルコトヲ言明スルニ於テハ我方ニ於テモ止ムヲ得ス其誤謬ヲ弁明スルト同時ニ露国ノ違反事實ヲ公示セントノ覚悟ヲ以

テ同国軍隊ノ違犯事實ヲ仏訳セシメ置キタルニ拘ラス斯ル論弁ノ必要ヲ見スシテ止ミタルノミナラス露国委員等ニ於テ却テ我國ノ正当行為ヲ公言シタルハ或ハ本委員等ガ同国ノ違犯事實ヲ會議ニ暴露センコトヲ恐レタル為ナルヤモ知ルヘカラスト雖之カ為メ會議中兩國委員間ニ於テ戰爭中ノ事實ニ付論議ナカリシハ會議ノ進行上最モ幸福ナリシコト疑ナキカ如シ

然レトモ今回ノ如キ軍隊行動ニ関スル列国会議ニ於テハ英独仏伊壤露ノ如キ歐洲中大ナル軍隊ヲ有スル諸国ノ委員ハ各自国ノ意見ヲ固執シ容易ニ他国委員ノ説ニ下ラサルノ姿アリテ小国ノ發言ハ仮令正当ナルモノト雖モ稍モスレハ之ニ耳ヲ傾ケサルノ形勢アリ帝國政府ノ意見發表ハ勿論票決ニ当リテ我委員ノ可否ニ関スル一言ハ重キヲ為シタルカ如キ事實ハ固ヨリ之ヲ認メタリト雖モ本委員等ニ於テ御訓令ノ如ク帝國政府ノ意見ヲ貫徹セムト欲セハ英國ノ如ク同政府ノ改正案ヲ會議ニ提出シ置クコト却テ不得策ナリト認メタルカ故ニ帝國政府ノ仮定改正案ハ英國委員ノ外決シテ之ヲ他ニ示サス列国委員団五ニ会場ノ一角ヲ占メ嚴然本國代表ノ形ヲ以テ討議ヲ為シタル議場ニ於テハ前記感情上ノ事情アルカ故ニ本委員等ハ漫リニ議論ニ亘ルコトヲ多言シ

ニ基キ條約文ヲ編成スル為メ總會第四会ニ於テ條約起草委員ヲ設ケタリ同委員ハ四分科委員會ノ報告員四名ノ外ニ法律家中ヨリ「ホーランド」(英)「マルテンス」(露)「ゾオン」(独)及秋山委員ノ四名並ニ外交官等七名ヲ挙ケ合計十五名ヲ以テ組織シ同委員會ハ六月二十七日第一回ヲ開キテ議長ヲ「オーヂエー」氏、起草及報告主任ヲ「ルノー」氏ト定メ同氏ノ執筆ニテ各條項ノ草案ヲ作りテ他ノ委員ニ配布シ六月三十日ヨリ七月四日ニ渉ル三回ノ討議ニ於テ新條約文ヲ作成セリ

起草委員會ニ於テハ新條約ノ前提文ヲ始メ第二十九條以下ノ一般規則ヲ起草シタルノミナラス總會第四回ニ於テ分科委員會ノ報告中修正ヲ委托セラレタル諸点ヲ討議決定シ且各條項ニ付重要ナル文字ヲモ其後ノ總會ニ於テ承認ヲ得ヘキ條件ヲ以テ変更シタルコト多ク此會議ニ於テハ總會又ハ分科委員會ニ於ケル如ク各国ヲ代表スル委員国ノ資格ヲ以テ討議ヲ為スノ性質ナラサリシカ故ニ各委員ハ自由ニ其意見ヲ吐露シ討議モ亦円滑ニ行ハレ正当ナル所説ハ各委員共ニ之ヲ容ルルニ躊躇セサリシカ為メ秋山委員モ分科委員會ノ決議及同起草委員ノ草案ニ付數箇ノ修正ヲ提議シ條約文中ニ採用セラレタル所少カラス

若ハ正面ヨリ他国ノ意見ニ反對スル如キハ我政府ノ意見ヲ貫徹スルノ所以ニ非スト思考シタルカ故ニ会期中本委員等ハ英國委員ニ對シテハ勿論有力ナル他国委員ニ對シテモ其質問ニ応シ又ハ自ら進ンテ我意見ヲ腹藏ナク吐露シテ以テ之ニ同化セシメント尽力シタルニ拘ラス討議中ニ於テハ成ルヘク他国委員ノ説ニ對シテ攻撃ノ衝ニ當ラス帝國政府ト同一ナル意見ニ付テハ躊躇ナク賛成応援ヲ為スコトヲ勉メタルト共ニ止ムヲ得サル場合ノ外ハ自ら議論ヲ提出スルコトヲ避ケタルガ故ニ我仮定改正案ノ趣旨ハ大体ニ於テ貫徹スルコトヲ得タリト信ス

第四、條約起草委員ノ設定

四分科委員會ハ六月十三日ヨリ同二十七日ニ至ルノ間午前午後約四時間ニ亘リ各其會議ヲ開キ旧條約ノ條項ニ基キ瑞西政府提出ノ十四問題ヲ討究スルノ外列国委員ヨリ新規ナル議題ヲモ自由ニ提出セシメ新條約ニ規定セントスル事項ハ其趣旨ノ大体ニ付之カ可否ヲ決議シ其決議ニ基キ各分科委員ノ議長副議長已下ヲ以テ組織スル役員会ニ於テ其字句ニ修飾ヲ施シ該分科委員會ノ報告ヲ作りテ之ヲ總會ニ提出シタルカ故ニ六月二十七日總會第三回及翌二十八日總會第四会ニ於テ各分科委員會ノ報告ヲ討議可決シ更ニ該報告

第五、條約規定ニ関スル議事摘要

今回ノ會議ニ依リ締結ヲ見ルニ到リタル新條約ノ各條項ニ関スル議事及本委員等ノ討議及票決ノ大要左ノ如シ
新條約ノ名称ニ付テハ起草委員會ニ於テ議論アリタルモ遂ニ旧條約ノ名称ヲ成ルヘク存スルコトニ一決シ旧條約ニハ「戰場ノ軍隊ニ於ケル負傷軍人」トアルヲ戰場ニ於ケル軍隊ノ傷者及病者ト改ムルニ止メタリ

第一章 傷者及病者

第一條第一項ハ旧條約第六條第一項ニ「凡ソ負傷者又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何レノ国籍ニ屬スルヲ問ハス之ヲ收容シ看護スヘシ」トアルト同一意義ナレトモ軍人トアリテハ其意義狹隘ニ失シ軍隊所屬ノ非戦闘員ヲモ包含セシムルニ如カストノ理由ニ依リ之ヲ「軍人及官命ニ依リ軍隊ニ附屬スル其他ノ人員」ト改メタルノ外同條ノ意義ヲ明瞭ニ為シタルニ過キス此修正ニ付テハ一人ノ異議ナク我仮定案第二條ニハ軍人ノ文字ニ代フルニ交戦者ナル文字ヲ以テシタルモ海牙條約中戦闘員ノ意義ニ交戦者ナル文字ヲ使用シタル所アリテ本修正ノ一層明瞭ナルニ如カサルカ故ニ本委員等モ之ニ賛成セリ

同條第二項ハ仏国委員ノ提議ニ出テタルモ討議ノ末仏国委

員ハ塙国委員ノ提議ニ妥協シ本文ノ如キ決議ニ至リタルモノニシテ独露米國委員モ当初ヨリ之ニ賛成シ第一項ニ於テ戰勝軍ハ病傷者ヲ救護スヘキ原則ヲ設定シタルト同時ニ退却軍モ軍事上事情ノ許ス限りハ其患者ヲ救護スヘキ戰勝軍ニ助力ヲ為サシムル為メ衛生部員ノ一部ヲ病傷者ト共ニ殘留スルノ義務ヲ設定スルコト至当ナリトノ主張ハ一般ニ勢力ヲ得本委員等ハ我仮定案第十三條ノ趣旨ニ依リ明石委員ノ發言ヲ以テ英國委員ト共ニ此義務ヲ規定スルノ必要ナク戰勝軍ハ其權内ニ陥リタル敵國患者ヲ放抛シ置クコト實際上斷シテアルヘキ管ナシト主張シ條約中ニハ第一項ノ原則ヲ設定スルノミニテ病傷者ノ救護充分ナリト論シタルモ票決ニ當リ兩國ニ對スル二十箇國ノ多數ヲ以テ之ヲ可決セリ但シ此規定タル其殘留衛生部員ハ新條約第十二條第二項及第三項ニ依リ該患者ノ救護上必要ナキニ至ルト同時ニ本國ニ送還セラルヘキコトト為リ居ルノミナラス退却軍ニ於テ衛生部員ノ一部ヲ患者ト共ニ殘シ置クハ軍事上事情ノ許ス限リトノ條件アルガ故ニ實行上此條項ノ有無ハ大關係アリト云フヘカラス且列國委員ノ大多數力之ニ賛成ノ意向ナリシニ依リ本委員等ハ英國ト同シク票決ニ於テ棄權中立ノ態度ヲ取レリ

其他ノ者ト雖モ戰爭中兵器ヲ操ラサル條件ヲ以テ均シク其本國ニ送還シ得ヘシ(第四項)

トノ規定中前後二項ヲ削除スル提案ニハ列國委員ニ於テ異存ナカリシモ第三項ニ於ケル治療後兵役ニ堪ヘスト認メタル者ハ固ヨリ戰爭終局ニ至ル迄抑留シ置クノ必要ナク其兵役ニ堪ヘサル者ノ中ニ付腦力上本國ノ戰略等ニ重要ノ關係アルヘキ將校ヲ除クノ外ハ我俘虜取扱規則第二十八條ニ於テモ之ヲ本國ニ送還スヘキ規定アリテ日露戰爭中我政府ハ屢々斯ル俘虜ノ歸國ヲ許可セラレタル实例モアルカ故ニ我仮定案第四條ノ趣旨ニ基キ討論中加藤委員ハ旧條約第六條中第二項及第四項ハ削除ノ意見ナレトモ同條第三項ハ「治療後如何ナル性質ノ軍務ニモ堪ヘサル者ヲ本國ニ送還ス」トノ修正ヲ以テ之ヲ維持スルノ希望ヲ言明シ此点ニ關スル討論中仏國委員ハ新條約中ニ軍司令官ノ有スヘキ一定ノ權力ヲ規定スヘキ提議ヲ出シ英國委員ハ之ニ反對シテ條約中ニハ國家ノ義務如何ヲ規定スルニ止ムヘク軍衙ノ權力如何ヲ規定スヘキ限リニ非スト論シ本委員等ハ英國委員ニ同意シタルモ票決ノ結果仏國ノ提議ハ十六箇國ノ賛成ヲ以テ可決ニ至リ其結果トシテ遂ニ新條約第二條第二項ニ交戰國ハ傷病者ノ取扱ニ關シテ例外的若ハ有益ト認ムル約定ヲ

第二條第一項ハ瑞西政府ノ第二問中前半ノ問題ニシテ敵國權内ニ入リタル病傷者ヲ俘虜ト看做スコトニ付テハ列國之ニ反對ナク單ニ一般俘虜ニ比シ特別ノ待遇ヲ為スヘキヤ否ニ付議論アリタルモ票決ニ當リ治療ヲ加フルノ外原則トシテ何等取扱ヲ異ニスヘキモノニ非スト決定シ此原則ハ我仮定案第三條ニモ規定シアルカ故ニ本委員等モ之ニ賛成セリ但シ本條中「俘虜トス」トアルハ「ホルランド」氏ノ發議ニテ原案ノ如ク「俘虜ト看做スヘキ」云々ノ文字ハ薄弱ニ失シ病傷者ハ當然俘虜ナリトノ理由ニ出テ何人モ異議ナク之ヲ是認シタルニ依ル

同條第二項ハ瑞西政府ノ第二問後半ニ於ケル旧條約第六條中第二、第三及第四項ヲ削除スヘキヤ否ノ問題ニ關聯シテ生シタル討論ノ結果ニ出テ旧條約第六條第二項乃至第四項ニ於ケル

軍司令官ハ戰闘中負傷シタル敵國軍人ヲ事情ノ許ス限リ双方ノ合意ヲ以テ敵軍ノ前哨ニ送還スルノ權能ヲ有ス

(第二項)

治療後兵役ニ堪ヘスト認メタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

(第三項)

相互間ニ為スコトヲ得トノ義務的ニ屬セサル規定ヲ設クルニ至リ其權力上殊ニ任意ヲ以テ約定シ得ヘキ事項ヲ第一号乃至第三号ト為セリ

就中第一号ハ旧條約第六條第二項ノ規定ニ類似シ居レトモ軍司令官ニ代フルニ交戰者ナル文字ヲ以テシ又旧條約ノ如ク敵軍前哨ニ送附スルノ制限ヲ除キタルノナラス傷者ヲ送還スルト否トハ自己ノ任意ニシテ之ヲ欲スル場合ニ送還シ得ヘキニ止リ此規定ノ有無ハ實際ニ於テ大ナル關係ヲ認メサリシカ故ニ之カ票決ニ當リ本委員等ハ棄權中立ノ態度ヲ取リ第二号ハ我仮定案ノ治療後如何ナル軍務ニモ堪エサルノ條件ニ代フルニ病傷者ニシテ輸送ニ堪ヘ得ヘキ場合又ハ治療後ニ於テ交戰者ノ之カ抑留ヲ欲セサル者ヲ還送セシムルコト、為シ此規定中ニハ我提案モ自ラ包含シ居ルノミナラス之ヲ交戰者ノ義務トセスシテ權力トシ且其規定モ広義ニ亘リ事實上故障ヲ挾ムノ余地ナキカ故ニ本委員等ハ票決ノ際之ニ賛成ヲ表シ又第三号ハ海牙條約(陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則)第五十七條ニ於ケル規定ノ趣旨ヲ再録シタルニ止リ此條項ヲ新赤十字條約中ニ掲載スルノ必要ナキト同時ニ其掲載ヲ不可ナリトスル有力ナル理由モナク其規定ノ實質ハ此規定ノ有無ニ拘ラス海牙條約ニ依リ當然實行ス

ヘキコトナルカ故ニ本委員等ハ之ヲ條約中ニ規定スヘキヤ否ニ付テハ棄權中立ノ態度ヲ取レリ

第三條第一項ノ後半ハ瑞西政府ノ第一問中第一号ニシテ傷病者及死者ヲ虐待及掠奪ヨリ保護スルコトニ付テハ列国共ニ異議ナカリシモ之ヲ軍議ノ絶対的義務ト規定スルニ於テハ保護ノ行届カサル萬一ノ場合ニ責任ヲ負フコトヲ恐レ或ハ為シ得ル限り保護スヘシト云ヒ又ハ其保護ノ手段ヲ講スヘシト云フカ如キ修正案出タルモ畢竟スルニ海牙條約中陸戰ノ法規慣例ニ関スル規則第四條ニ俘虜ハ博愛ノ心ヲ以テ待遇セラルヘシトアリ

第四十七條ニハ掠奪ハ之ヲ嚴禁ストノ規定モアリテ此規定ハ新規ノモノニ非ストノ議論モ出テ又凡テ條約ニハ原則ヲ規定スルニ止リ之ニ制限ノ文字ヲ置クハ其原則ノ効力ヲ薄弱ナラシムルノミナラス却テ危険ナリトシ加フルニ本委員等ハ條約ニ規定ノ原則ト雖モ相当ノ注意ヲ以テ其実行ノ手段ヲ講セハ同條約履行ノ責ヲ尽シタリト云フヘク萬一ノ場合ニ付悉ク其責任ニ負フヘキニ非スト解釈スルヲ当然ト認メタルニ依リ此点ニ付テハ我仮定案第一條ノ如ク條約文中ニ何等制限ノ文字ヲ置カサルヲ可ト思考シ討議ノ末遂ニ全会一致ヲ以テ本文ノ如ク可決セリ又同條第一項前半ニ於

ニ於テモ兵士一般ニ認識票ヲ携帯セシメアレトモ其携帯ヲ條約ノ義務トシテ規定スルコトノ必要ナク各国ハ自国軍人負傷者又ハ戦死者ニ関スル通報ヲ得ルノ利益ヲ顧慮シ此制度ヲ任意ニ採用スヘク之ヲ條約中ニ規定セサルモ（ハ）号ニ於ケル戦死者及病傷者ノ名簿ヲ其本国ニ送附スルノ規定ト何等牴觸ナキコトヲ弁明シ英露兩國委員モ同一意向ナリシヲ以テ票決ノ結果此規定ヲ條約中ニ入ルヘシトスルモノ七国、棄權三国ニ對スル十四箇國ノ多数ニテ我政府ノ意見ノ如ク之ヲ條約中ニ規定セサルコトニ決定セリ

右會議後独逸國「マンツーフエル」少将ハ本委員等力之ヲ熱心ニ主張シタルハ何等ノ理由ニ出テタルヤ戦死者ニ依リ戰闘部隊ノ敵國ニ知レ得ヘキヲ顧慮シタルニ非スヤトノ質問ヲ密カニ為シタルヲ以テ本委員等ハ然ルニ非ス戰場ニ於テ兵士ノ認識票ヲ紛失スル場合ニ於テ國家ハ條約違反ノ責ヲ負フコトヲ欲セサルニ外ナラスト答ヘタリ又瑞西政府ノ第一問中（ハ）号ノ結果タル各交戦者ハ其收容ニ係ル死体ニ付發見シタル認識表又ハ軍隊符号並ニ傷病者ノ名簿ヲ成ルヘク其本国官憲又ハ軍隊ニ送附スヘシトノ規定ハ列國異議ナク可決シテ本條第一項ト為リタルモノニ屬シ此点ニ付テハ我仮定案第六條ニ是認シアルノミナラ

ケル各戰闘後戰場ノ占領者ハ傷者ヲ搜索スルノ手段ヲ取ルヘキコトノ規定ハ仏國委員ノ提議ニ屬シ我戰場掃除戦死者埋葬規則第一條ニモ之ト同一規定アリテ本委員等ハ之ニ賛成シ全会一致ヲ以テ可決ニ至リタルモノトス

同條第二項ハ瑞西政府ノ第一問中（イ）号ニ相当シ此問題ハ滿場一致ヲ以テ可決シ我戰場掃除戦死者埋葬規則第五條ニ於テモ死体ヲ埋葬又ハ火葬スルニ先チ其死亡者ヲ確ムヘキコトヲ規定シ仮定案第五條ニ於テモ同一ナルカ故ニ本委員等モ其決議ニ賛成セリ

第四條第一項ハ瑞西政府ノ第一問中（ロ）号及（ハ）号ニ關係シ（ロ）号ニ於ケル凡テ軍人ハ何誰ナルヤヲ識別シ得ヘキ認識票ヲ携帯スヘキコトハ歐洲諸國中ニモ其制度ノ行ハレ居リ死者ノ氏名等ヲ識別スルニ最モ必要缺クヘカラサルコトナルヲ以テ列國ノ賛成多カルヘキヲ豫期シタルカ故ニ此点ニ付テハ本委員等ハ断然條約中ニ之ヲ規定スルコトヲ欲セサルノ意思ヲ發表スルニ如カスト思考シ此問題ノ議場ニ上リタル劈頭ニ於テ加藤委員ヨリ日本政府ハ自國軍隊ニ此制度ヲ適用シ軍人ニ認識票ヲ携帯セシメ居ルコトナレトモ國家ノ義務トシテ國際條約中ニ此原則ヲ規定スルコトヲ欲セスト断言シタルニ仏國委員之ヲ賛成シ同國ノ制度

ス戰場掃除戦死者埋葬規則第三條及第十九條ニ於テモ敵國戦死者ニ付テハ認識表其他ニ依リ氏名所屬部隊等ヲ確メ之ヲ俘虜情報局ニ通報シ同局ハ敵國官憲ニ通知スルノ制度アルカ故ニ本委員等モ全然之ニ賛成セリ但シ同討議中露國俘虜情報局長官タリシ「マルテンス」氏ハ日露戰爭中兩國俘虜情報局ハ互ニ直接ノ通信ヲ為シ傷病者ノ名簿ヲ規則正シク直接ニ通報シタリト公言シタルモ本委員等ハ當時露國情報局ヨリ送附シ來リタル通報ノ杜撰ニシテ不規則ナリシコトヲ知ルカ故ニ別ニ此發言ニ贊同ノ意ヲ表セス冷然トシテ黙過セリ

第四條第二項ハ仏國委員ノ提議ニシテ之ト全然同一趣旨ノ規定ハ陸戰ノ法規慣例ニ関スル海牙條約第十四條ニ依リ國際條約トシテ既ニ存在シ居ルカ故ニ病傷者及死者ニ関シテ赤十字條約中ニ之ヲ反復スルコトハ何人モ大體ニ於テ反對アルヘキ筈ナク全会一致ニテ採用ニ至リタルモノトス但シ本條ノ規定中病院又ハ繃帶所等ニ於テ死亡シタル傷病者ノ殘留品ヲ本國ニ還送スルコトハ日露戰爭中我政府ノ固ヨリ実行セラレタル所ナレトモ戰場ニ於テ發見シタル個人使用ノ一切ノ物件ヲ死者ノ關係者ニ送附スルヲ為メ本國官憲ニ送致スヘキ一点ニ関シテハ事實上戰場ニ在ル多数ノ物件ヲ

敵国官憲ニ送附シ得ヘカサルノミナラス其物件ノ所有者タル死者ノ氏名等ヲ軍隊ニ於テ知り得サル物件ハ假令之ヲ本国ニ送附スルモ同国官憲ニ於テ本人ノ遺族其他ノ關係者ヲ明瞭ニスルノ途殆ントナキカ故ニ交戦国ニ於テ戦時多端ノ際戦場ニ遺棄シタル所有者不明ノ多数ナル敵国物件ヲ悉ク敵国ニ送附ノ手續ヲ取り得ルト仮定スルモ同物件ハ畢竟敵国政府ノ所有ニ歸スルノ外ナカルヘク交戦国ハ戦争中斯ル無益ニシテ煩シキ多大ノ手数ヲ取りテ敵国政府ノ没収ニ歸スヘキ物件ヲ之ニ送付シ敵国ノ国庫ヲ肥スノ義務ヲ有セス又有スヘカサルコト明白ナルヲ以テ之ト同一ナル規定ハ海牙條約附屬規則第十九條ニ掲載シアルニ拘ラス我政府ハ戦場掃除戦死者埋葬規則第十九條ニ於テ敵国戦死者ノ残留物件中所有者ヲ知得シタルモノハ軍隊ヨリ之ヲ俘虜情報局ニ送附スヘキコトヲ規定セラレ俘虜情報局ハ之ヲ敵国ノ遺族其他ノ關係者ニ送附ノ手續ヲ取りタルト同時ニ斯ル残留品中死者ノ氏名等知レサルモノハ右規則第二十一條ニ依リ之ヲ戦利品トシテ取扱ハレタルコトナルカ故ニ此條項ノ討論ニ上リタルニ際シ秋山委員ノ発言ヲ以テ此点ヲ論シ戦場ニ於テ発見スル一切ノ物件トアル文字ニ制限ヲ付シ死者ノ氏名ヲ軍隊ニ於テ知り得タル物件ニ限リ本国官憲ニ送

キコトニ非サル旨ヲ説述シタルニ露国「マルテンス」氏ハ日露戦争中露国俘虜及戦死者ノ遺留品ハ日本俘虜情報局ヨリ立派ナル木製ノ箱ニ入レテ露国ニ送付セラレタリトノ事實ヲ挙ケ總テ戦争ニ於テハ日本官憲ノ為シタル如ク成ルヘク遺留品ヲ遺族等ニ送付スルノ至当ナルコトヲ言明シ之ニ次キ仏国「ルノール」氏ハ秋山委員ニ向ヒ戦場ノ遺留品中死者ノ氏名及關係者ノ不明ナルモノヲ敵国ニ送付セサルハ實際ノ取扱上然ルコトトシ此條文ハ其儘ニ為シ置キテハ如何トノ相談アリタルヲ以テ秋山委員ハ必スシモ條文ノ改正ヲ主張スルニ非ス實際ニ於テ死者ノ氏名ヲ知り得タル物件ヲ敵国官憲ニ送付スルト共ニ所有者不明ナル戦場ノ物件ヲ悉ク敵国ニ送付スルコトハ事實上不可能ナルヲ以テ其取扱上斯クシテ妨ナキ以上ハ條文ハ此儘ト為シ置クモ異議ナシト言明シテ之ニ関スル議論ヲ終リタルカ故ニ此点ニ関シ我委員ノ主張ハ事实上是認セラレタルモノト見ルヲ得ヘシ

第五條ハ旧條約第五條ノ削除ニ関スル瑞西政府ノ第八問ヲ討論ノ結果ニ出テ旧條約ノ如ク傷者ヲ救護スル人民ヲ自由トシ地方人民ニ慈善行為ヲ奨励シ之ニ中立ノ待遇ヲ与フルコトヲ軍司令官ノ義務トシ其看護ヲ為ス人民ノ家屋ニ一定

付スヘキコトヲ主張シタルモ列国委員ハ之ニ反対セサルト同時ニ別ニ賛成者モナク遂ニ原案ノ決議ト為リタルカ故ニ秋山委員ハ起草委員会ニ於テ再ヒ同一議論ヲ主張シタルニ蘭国委員ハ戦場ニ於ケル敵国戦死者ノ残留品ハ一切敵国ニ送付スル方宜シカルヘク戦勝軍隊ニ於テ其所有者ノ氏名又ハ關係者ヲ知り得ヘカサルモノト雖モ其遺留品ヲ本国ニ送附スルトキハ本人ノ遺族其他ノ關係者ヲ発見スルコトモアルヘシト云ヒ之ニ次キ朴直ナル英国「ホルランド」氏ハ秋山氏ノ余ニ説明セラレタル所ニ依レハ日露戦争中戦死者不明ノ残留物件ハ一切之ヲ戦利品トセラレ露国政府ニ於テモ然シタルノミナラス日本政府ハ死者ノ氏名ヲ知り得タル残留物件ハ悉ク露国ニ送付シタルモ露国官憲ヨリハ日本人死亡者ニ屬スル遺留物件ヲ殆ント送付セサリシ話ナリト公言シ秋山委員ハ蘭国委員ニ答ヘ戦場ニ於テハ多数ノ残留品遺棄物アリテ其物件ノ所有者ハ自国人ナリヤ敵国人ナリヤ將タ地方人民ナリヤ實際判然セサルモノ夥シキノミナラス凡テ戦場ニ於ケル所有者不明ノ遺棄物ハ戦争法上戦利品ト為シ得ヘキコトハ「ハレック」ヲ始メ有力ナル多数國際法学者ノ著述ニ明言シアル所ニシテ實際所有者不明ナル無量ノ物件ヲ一切敵国官憲ニ送付スルコトハ行ヘレ得ヘ

ノ特典ヲ保障スルコトハ列国悉ク反対ナリシモ蘭国委員ハ之ヲ全然削除スルヲ不可トシ軍司令官ハ戦場ニ於ケル人民ニシテ交戦国双方ノ傷病者ヲ收容救護スルモ之ヲ目シテ戦争行為ニ干与スルモノト看做サストノ條項ヲ存スヘキ勸議ヲ出シ陸軍官憲ノ権力トシ其任意ヲ以テ地方人民ニ病傷者ノ救護ヲ勧誘シ得ヘキコト又其勧誘ニ応シタル者ニハ一定ノ特典ヲ与ヘ得ヘキコトヲ規定スルハ不可ナシトノ議論ハ一般ニ異議ナク我仮定案ニ於テ旧條約第五條ヲ削除トアルモ畢竟スルニ軍司令官ノ義務トシテ地方人民ニ対シ不必要且煩雜ナル病傷者救護ノ勧誘ヲ為シ又地方人民中博愛心ニ出テスル一定ノ特典ヲ得ントノ心算ヲ以テ路傍ノ傷病者ヲ其家屋ニ引込ミタル場合ニモ其人民ニ自由トシ同家屋ヲ軍人ノ宿舍ニ宛テス取立金ノ一部ヲ免スルニ至ルヘキ旧條約規定ノ弊害ヲ不可ナリトセラレタルニ外ナラサルヘキカ故ニ此改正ノ如ク軍衛ノ権力トシ要スレハ其監督ノ下ニ病傷者ノ救護ヲ勧誘シ得ヘシトスルハ本委員等ニ於テモ別ニ反対ノ必要ヲ認メサルト同時ニ此規定ヲ本條約中ニ入ルルノ必要ヲ認メサリシカ故ニ陸軍官憲ノ任意ニテ必要ト認ムル場合ニ第一傷病者ノ為メ人民ニ博愛心ヲ勧誘スルノ規定ヲ設クヘキヤ否ノ票決ニ付テハ本委員等ニ於テ独リ棄

權中立ノ態度ヲ取り第二傷病者ヲ收容シタル人民ニハ特典ヲ与フヘキヤノ票決ニ付テモ棄權中立ノ態度ヲ取りタルモ列国委員多數ノ贊成ヲ以テ此規定ヲ設クルコトト為レリ

第二章 衛生的移動機關及固定設備

第六條ハ旧條約第一條ノ修正ニ屬シ同條ニ於テハ戰地仮病院及陸軍病院トアリシモ軍隊ノ衛生勤務ニ関スル救護機關ハ旧條約締結ノ當時以來大ニ進歩シテ其組織ニ多大ノ變更ヲ来シタルカ故ニ千八百六十八年列国会議ニ於テ戰地仮病院ノ解釈適用ヲ広クシ軍隊ニ隨從スル繃帶所ヲモ之ニ包含セシメタルコトナルモ尙ホ独逸委員ハ軍隊衛生機關ノ規定ニ付一層広義ノ文字ヲ使用スルノ必要ヲ提議シ討究ノ結果衛生機關 (formation sanitaire) ト仮決シ置キタルニ起草委員會ニ於テ更ニ衛生的移動機關及固定設備ノ文字ニ改メ本條約中ニハ此二種ヲ區別シテ使用ノコトト為リ本條中ニ衛生的移動機關ノ注解ヲ置ケリ

本條ニ於テ移動機關及固定設備ト列挙シタルハ其造營物、救護及附屬人員並ニ衛生材料ノ一切ヲ綜合シタル名称ニシテ本條ニハ之ニ関スル原則ヲ規定シ旧條約ニ於テ同病院内ニ傷病者ノ存在スル間トアル條項ハ全会一致ヲ以テ瑞西政府ノ第九問前半ノ提議ノ如ク其削除ヲ可決シ本委員等モ我

於テ衛生的機關及設備ノ保護及尊重ハ衛生部員ノ斯ル正當防衛上兵器ノ使用ニ依リ之ヲ失フコトナシト為シタルニ外ナラス

同條第二号ハ瑞西政府第九問後半ノ問題タル衛兵又ハ番兵ニ依リ保護セラレタル場合ニ衛生的機關及設備ハ兵保護ノ特典ヲ失フコトナキコトヲ列国異議ナク可決シ本委員等モ我仮定案第二十一條ニ依リ之ニ贊成セリ又同條第三号ハ病傷者ノ待遇ニ関スル英國委員ノ提議ニ基キ本文ト為リタルモノトス

第三章 衛生部員

第九條ハ旧條約第二條ニ関スル瑞西政府ノ第三問前半ニ付英國委員ハ條約ニ依リ保護ヲ与フヘキ救護人員ヲ列挙スヘキコトヲ主張シタルニ露國委員ハ之ニ反對シテ各国ニ於ケル救護員ノ組織及名称ニモ異同アルヲ以テ列挙ノ方法ニ依ラサルコトヲ主張シ討議ノ結果トシテ分科委員會ノ役員ニ於テ作成シタル條項ニハ「傷者及病者ノ收容輸送並ニ其取扱及衛生ニ関スル一切ノ行政ニ官、規上、從事スヘキ者」ト記載スルニ至リタルカ故ニ本委員等ハ斯ル規定ニテハ我仮定案第七條ニ所謂補助担架卒ノ如キモ衛生部員ノ待遇ヲ受クルニ至ルヘキヲ恐レ明石委員ヨリ「官規上從事スル」ノ

仮定案第十六條ニ基キ其削除ニ贊成セリ

第七條ハ前條ノ原則ニ関シ瑞西政府ノ第九問前半ニハ戰地病院ヲ一切ノ場合ニ中立トストアリタルモ陸軍衛生ノ固定設備及移動機關共ニ之ヲ戰鬪の使用ニ供シタルトキハ其保護及尊重ノ特典ヲ失フヘキ例外ヲ英國委員ヨリ提議シ票決ヲ待タス列国ニ贊成セリ但シ前條ニ保護及尊重ノ文字ヲ用ヒ又本條ニ保護ノ文字ヲ使用シタルハ旧條約ノ中立ナル用語固ヨリ誤解ヲ生スルノ虞アルカ故ニ海牙條約ニ此文字ヲ絶対的ニ避ケタルト同時ニ同條約ニモ往々「侵スヘカラサル」ノ文字ヲ使用シ我仮定案ニモ同一ナルニ拘ラス此文字モ亦其適用上誤解ヲ生スヘキカ故ニ今回會議ノ結果トシテ新條約ニ「中立」又ハ「侵スヘカラサル」ノ文字ヲ共ニ使用セサルコトト決定シタルニ依ル

第八條ハ瑞西政府ノ第七問第九問後半及第五問ニ関スル各分科委員會ノ決議ヲ綜合シタルモノニ屬シ本條第一号ノ規定ハ瑞西政府ノ第七問ニ於テ我仮定案第十條但書ト同シク衛生部員カ正當防衛ノ為メニ非スシテ兵器ヲ使用スルトキハ其保護ヲ失フトアルニ對シ其正當防衛ノ範圍ヲ自己防衛ノ外其救護ノ下ニ在ル病傷者ノ防衛ヲモ包含セシムヘシトノ提議ハ全会一致ヲ以テ可決シ此決議ニ基キ起草委員會ニ

文句ヲ一層明確ニシ補助担架卒ハ之ニ包含セシメサルノ希望ヲ言明シタルモ議長ノ説明ニ依リ此点ヲ條約成文中ニ規定スルノ困難ヲ發見セリ何トナレハ補助担架卒トハ我軍成上ノ名称ニシテ列国共通ノ編成ニ非ス独逸兩國ノ Hilfstärke 仏國ノ Brancardier 等列国其名稱ヲ異ニシ用法組織ニ差異アルノミナラス我補助担架卒ト殆ント同一ナル独逸國ノ Hilsträger ハ他國ノ Hilsträger ト其性質ヲ異ニシ独逸國ノ同兵士ハ衛生部員以外ニ置キ他國ノ同兵士ハ衛生部員中ニ包含スヘキモノナルヲ以テ軍制ヲ解剖シテ法文ニ規定シ得ヘカラサルカ故ニ議長ノ説明ニテハ各場合ニ付其作業上戰鬪員ト非戰鬪員ヲ區別スルノ外ナシトセリ然レトモ尙此規定ニテハ不充分ナル所アルカ故ニ諸國委員モ「官、規上」ニ代フルニ「専ラ」ナル文字ト為スヘキコトヲ唱ヘ秋山委員モ亦之ヲ主張セリ何トナレハ赤十字條約ニ依リ敵國軍隊附屬ノ衛生部員ヲ保護スル所以ハ其職務上一切ノ戰鬪行為ニ關係セス自國人及敵國人ノ區別ナク戰場ニ於ケル病傷者ヲ救護スルニ職由セサルヲ得サルカ故ニ若シ一國ノ官規上同一兵士ヲ病傷者ノ救護ニ從事セシムルト同時ニ戰鬪ニ從事セシムルコトアルニ於テハ戰鬪員ト非戰鬪員トノ區別ヲ没却シ赤十字條約ノ保護スヘキ人員如何

ノ基礎ヲ根本的ニ滅却スルニ至ルヘク現ニ日露戰爭中露國軍隊ニ於テハ旅順戰圍ヲ始メ其例夥ク一昨年十月神戸港ニ於テ露國衛生部員等四十七名ヲ帰國セシメラレタル際陸軍省ヨリ官報ニ公ニセラレタル趣意書中ニモ

露國陸軍ノ制度ニ於テハ担架卒ニ對シテ豫シメ赤十字臂章ヲ交付シ同兵士ハ他ノ戰闘員ト同シク銃器ヲ携帯シテ戰闘ニ從事シ交戦中負傷兵ノ生シタルトキハ該臂章ヲ左腕ニ装着シテ之ヲ運搬シ得ルコトト為シ居ルカ故ニ帝國陸軍ニ於テ捕獲シタル俘虜中赤十字臂章ヲ制服ニ固着セシテ之ヲ懷中シ居ルモノ尠カラス此制度タル戰闘員ト萬國赤十字條約ノ保護ヲ受クヘキ衛生部員トノ區別ヲ没却シ交戦者ヲシテ同一戰闘中何時ニテモ其任意ニ依リ臂章ヲ装着又ハ脱却スルヲ得セシムルカ如キ濫用ノ虞ナキ能ハサルヲ以テ帝國政府ハ萬國赤十字條約ノ趣旨ニ於テ其正当ヲ認ムルコト能ハス

ト明言シアルカ故ニ新條約ニ於テハ此宣言ニ對シテモ此點ノ主張ヲ必要ト認メタリ

然ルニ分科委員會ニ於テハ英國ノ贊成ヲ得タルモ塙國ノ反對ニ依リ一般ノ注意ヲ惹クニ至ラスシテ原案ニ可決シタルカ故ニ起草委員會ニ於テ秋山委員ハ再ヒ此問題ヲ提起シ官

為シ能ハサルノミナラス其發火退撃ハ人情上忍フヘカラサル所アルコトヲ説キタルモ討議ノ末我提議ノ趣旨ハ戰時法上當然ノコトニ屬シ條約中ニ此規定ヲ設クルノ必要ナシトノ決議ハ十四票ニ對スル二十六票ノ多數ヲ以テ通過セリ

同條第二項ニ衛生的移動機關又ハ固定設備ヲ防禦スル衛兵又ハ番兵ノ敵軍ノ手ニ入リタルトキハ之ヲ俘虜ト為ササルノ規定ハ瑞西政府ノ第九問末文ニシテ此點ニ付本委員等ハ列國ニ於テ俘虜ト為スコトニ異議ナカルヘシト信シ居リタルニ拘ラス委員會ニ於テハ此點ニ付殆ント朗誦ヨリ直ニ採決ニ移リシヲ以テ諸國委員油斷ノ間ニ何等ノ議論ナク票決ノ結果ハ本委員等ヲ始メ俘虜ト為スノ説ヲ有スルモノ六箇國ニ對シ十八箇國ノ多數ヲ以テ俘虜ト為スヘカラサルコトニ一決シタルカ故ニ本委員等ハ其同意ヲ為シタル諸國就中独逸其他ノ強國委員ニ對シ其不條理ナルコトヲ弁明シ陸戰ノ法規慣例ニ關スル海牙條約ニ於テモ軍隊附屬ノ新聞通信員觀戰者其他軍ノ一部ヲ為ササル非戰闘員スラ俘虜トシテ抑留シ得ヘキ規定アルニ拘ラス敵國戰闘員ナル兵士ヲ俘虜トシテ抑留シ得ヘカラサル理由ナク又之ヲ俘虜ト為スヘカラサルニ於テハ敗軍ノ際多數ノ兵士ハ病院繃帶所等ニ

規上病傷者ノ收容運送及取扱ニ從事スヘキ「非戰闘員」タル人員ト為スヘキコトヲ論シタルニ仏國委員之ヲ贊成シ協議ノ末「官規上」ナル文字ニ代フルニ「専ラ」ナル文字ヲ以テスルコトト為リ我主張ハ全部貫徹セリトハ云フ能ハサルモ少クモ其一部ハ通過スルニ至レリ

又本條ニ於ケル衛生部員ノ特典ハ一切ハ場合トアレトモ我仮定案第七條ニ於ケル如ク特別ノ許可ナクシテ敵ノ戰線内ニ入り又ハ攻囲封鎖線外ニ出ツルコトハ固ヨリ許スヘカラス日露戰爭中露國衛生部員ハ屢々我戰線内ニ入りタルノ事實アリシカ故ニ本委員等ハ此點ヲ新條約中ニ規定セシメント欲シ明石委員ヨリ之ヲ提議シ英國委員ハ贊成シタルモ他國委員ハ條約中ニ斯ル規定ヲ入ルルノ必要ナシトシ衛生部員ハ軍隊指揮ノ下ニ行動スルカ故ニ敵ノ戰線内ニ進入スルコトナカルヘク又斯ル行動ヲ為ストキハ之ニ發火シテ擊退シ得ヘシト云ヒ明石委員ハ之ニ答ヘ衛生部員ハ赤十字條約保護ノ下ニ在ルコトヲ信スルト同時ニ自國負傷兵ヲ救護セントノ熱心ニ驅ラレ往々敵ノ戰線内ニ入ルコトアリ斯ル場合ニ於テ我國兵士ノ如キハ赤十字記章ノ侵スヘカラサルコトヲ教育セラレ居ルカ故ニ之ニ發火スルコトハ容易ニ

集リ來リテ俘虜タルコトヲ免カルルノ弊害ヲ生スヘシト説破シタルモ既ニ正式ニ決議シタル事項ニシテ其後ノ委員會ニ於テハ根本的ノ討論ヲ許ササルカ故ニ之ヲ翻ヘスノ機會ヲ得サリシモ塙國委員ヨリ字句修正ノ名義ヲ以テ衛兵又ハ番兵ヲ俘虜トセサルハ當該官憲ヨリ交付シタル其命令書ヲ有スル場合ト為スノ提議出テタルニ依リ本委員等ハ既ニ本條規定ノ根本ヲ動カスヘカラストセハ其希望ノ半ヲ達スルノ得策ナルヲ信シ直ニ之ニ贊成シ同提議ハ全会一致ヲ以テ通過シタルカ故ニ前記ノ弊害ヲ輕減スルヲ得タリ蓋シ衛兵又ハ番兵ハ一般ニ俘虜ト為スヘカラストノ學說ハ久シキ以前ヨリ歐洲大陸學者ノ著述ニ散見スルノミナラス多數ノ小國ニ於テハ成ルヘク戰爭ノ際戰闘員ヲ減少セサルノ方針ヲ採リ居ルコト「ブルッセル」會議以來同一ナルト同時ニ戰闘行為ノ寬仁ナル規定ニハ其理否如何ニ拘ラス贊成スルノ傾向アルカ故ニ此條項ニ付テモ討議ヲ須ヒスシテ決議ニ付シタルカ為メ意外ノ結果ヲ見ルニ至リタルモノト思考ス

第十條ハ瑞西政府ノ第三問ナル私立救護會ニ附屬スル救護員ノ保護問題ニシテ軍隊ノ權下ニ在ルスル救護員ニ對シテハ赤十字條約ノ保護ヲ与フル規定ヲ置クヘキコトハ今回條

約改正ノ一大眼目ナルカ故ニ列国共ニ異議ナク之ヲ決議シ我仮定案第七條ニ於テモ其規定アルカ故ニ本委員等モ之ニ賛成セリ但シ本條第二項ハ第二分科委員会役員ニ於テ諸国委員ヨリ提出シタル意見ヲ参酌シテ作成シ同分科委員会ノ討議ニ於テ満場異議ナク可決ニ至リタルモノトス

第十一條ハ瑞西政府ノ第三問後半ヲ討議ノ結果ニ出テ中立国ノ私立救護団体ニシテ交戦国一方ノ軍隊衛生事業ニ従事セントスルトキハ先ツ其本国政府ノ許可ヲ要ストノ提議アリ蓋シ歐洲諸国ニ於ケル赤十字協會ハ我國ノ如ク全国ヲ通シタル一団体ナラサルノミナラス其救護諸団体ハ各特別ナル歴史ヲ有シ政府トノ關係モ亦我國赤十字社ノ陸海軍指揮ノ下ニ在ルカ如キ關係ナラサルモノアルカ故ニ独露兩國委員ハ此規定ノ必要ヲ主張シ大多數ヲ以テ決定ニ至リタルモノナレトモ本委員等ハ当初ヨリ此問題ヲ目シテ各国政府カ自国赤十字社ノ行動ヲ監督スヘキ内国秩序ノ問題ト認メ條約中ニ之ヲ規定スルノ必要ヲ認メス然レハトテ政府監督ノ下ニ在ル救護団体ニシテ他国ノ軍隊衛生ニ従事セントスルニ当リテハ其政府ノ許可ヲ得ヘキコト当然ナルカ故ニ規定ノ趣旨ニ於テハ反对スヘキコトニ非サルカ故ニ票決ニ際シ棄權中立ノ態度ヲ採レリ然レトモ第二項ニ於ケル中

問題ニ付テハ激シキ議論アリ本委員等ハ新條約中ニ俸給Soldatノ文字ヲ避ケント勉メタルモ赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル海牙條約第七條末項ニ於テ敵軍ノ權内ニ陥リタル衛生部員ニハ其俸給traitementノ全額ヲ与フトアリテ新條約ニ同一ノ規定ヲ置クコトニ付テハ大勢一致シテ動カスヘカラサリシカ故ニ本委員等ハ俸給ヲ与ヘス実物給与及相当ノ待遇ヲ与フルニ止メントシ又俸給ヲ与フヘキ決議ニ至リタル後ニ於テモ明石委員ヨリ其俸給ヲ与フルハ敵国衛生部員ヲ軍隊ノ衛生事業ニ使用スル場合ニ限り之ニ使用セサルトキハ其抑留中俸給ヲ与フルヲ要セサルコトト為サントノ發言ヲ為シタルトモ其衛生部員ヲ使用スルト否トハ自国ノ任意ニシテ抑留中自国ノ之ヲ使用セサルカ為メ俸給ヲ与ヘサルハ不可ナリ俸給ヲ与ヘサラントセハ敵国ニ帰ラシムルノ一途アルノミトノ説ニ大勢一致シテ動カスヘカラサリシカ故ニ本條ノ規定ヲ見ルニ至リタルモノトス但シ斯ル衛生部員ニ支給スヘキ俸給額ニ付テハ日露戰爭中我政府ノ採ラレタル主義ニ鑑ミ我仮定案第十四條ノ説明ニ照シ自国軍隊ニ於ケル同一階級ノ衛生部員ト同一ノ割合ト為サント欲シ列国委員ニ其然ラサルヲ得サル理由ヲ説述シタルニ恰モ伊国委員ヨリ之ヲ提議シ独国委員及本委員等モ直ニ

九二〇
立国私立救護団体ニシテ交戦国一方ノ衛生事業ニ加ハルトキハ我仮定案第二十二條ノ趣旨ニ依リ對敵国ニ其通知ヲ為スノ必要ハ之を認メタルカ故ニ其通知ノ必要如何ニ關スル票決ニハ之ヲ可トシタリ

第十二條第一項ハ旧條約第三條ニ關スル瑞西政府ノ第五問中第一号ノ問題ニシテ赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ応用スル條約第七條第二項ニモ敵国ノ權内ニ入りタル衛生部員ハ「必要ノ存スル間其救護事業ニ従事スヘキモノトス」トノ規定アリテ本項ト全然同一ノ條項ヲ海牙條約ニ約定シ居ルカ故ニ此点ニ付テハ当初ヨリ全会一致ノ形勢アリ我仮定案第十二條ニハ少シク之ニ異ナル規定アレトモ大勢上異議ヲ挟ムノ余地ナク通過シ第二項ハ瑞西政府ノ第五問第二号ニシテ分科委員会ニ於テ其大體ヲ是認シタル後塊仏英ノ諸国委員ヨリ其修正案ヲ提出シ討議ノ末満場異議ナク本文ヲ可決シ第三項ハ右第五問中末文ノ問題ニシテ衛生部員等ノ退去ニ当リ私有品ヲ携帯シ得ヘキコトハ旧條約第四條第一項ニ於ケル適當ノ規定ニ屬シ全会異議ナク之ヲ可決シ本委員等ハ必要ハ之ヲ認メタルカ故ニ其通知ノ必要如何ニ關スル票決ニハ之ヲ可トシタリ

第十三條ハ瑞西政府ノ第六問ニ關スル討議ノ結果ニシテ此

之ニ賛成シ独リ英國委員ノミ同国軍隊ニ於ケル俸給額ハ他國ノ同一階級者ヨリモ多額ナルカ故ニ其金額ハ抑留國ノ任意ト為サント主張シタルモ四箇國ノ棄權ニ對スル二十八箇國ノ多數ヲ以テ本條ノ如ク決定セリ

第四章 衛生材料

第十四條第一項ハ瑞西政府ノ第九問前半末文ヲ討議スルニ當リ同問題ニハ敵國ノ衛生移動機關ニシテ自国軍隊ノ權内ニ陥リタルトキ病傷者ノ救護上必要ナキニ至リタル場合ニハ本国軍隊ニ之ヲ送還スヘシトアリテ自国軍隊ヨリ其衛生材料ヲ敵國ニ送附ノ責任ヲ有スルノ嫌アリシカ故ニ明石委員ヨリ交戦國ハ其責任ヲ以テ送附ノ義務ヲ負フコト能ハス單ニ衛生部員退去ノ際之ニ衛生材料ヲ携帯セシムルコトヲ得ヘシト注意シ次テ英國委員ヨリ旧條約第四條第二項ノ如ク衛生移動機關ハ其材料ヲ保有スト為スノ提議出テ全会一致ニテ之ヲ可決シ更ニ仏國委員ヨリ本文ノ如キ修正案ヲ提出シ是又全会一致ヲ以テ可決ト為リ本委員等モ我仮定案第十七條ノ趣旨ニ依リ之ヲ賛成セリ同條第二項ハ前項ト同一問題ニ關シ露独塊英四箇國ヨリ箇箇ノ提議ニ付全会一致ニテ可決シタル事項ヲ綜合シタルモノニシテ本委員等モ衛生部員ノ還送ニ付テハ我仮定案第十五條ニ於テ其退去ノ時

期等ニ関シ同一趣旨ノ規定アルノミナラス陸軍官憲ハ場合ニ依リ其権内ニ入りタル敵国衛生材料ヲ傷病者ノ救護上使用スルノ必要モアルヘク又材料還付ノ場合ニモ其還付、時期、方法ヲ陸軍官憲ニ於テ定メ得ルハ当然ト認メタルカ故ニ本項ニ賛成セリ

第十五條第一項ニ於ケル衛生設備ノ建築物及材料ハ旧條約第四條第一項ノ規定ノ如ク当然戦争法ノ下ニ立ツヘキモ其使用方法ニ關スル瑞西政府ノ第十問ハ全然至當ニシテ我仮定案第十九條ニモ之ヲ規定シアルカ故ニ本委員等モ之ニ賛成シ列国何等ノ異議ナク之ニ可決セリ又同條第二項ハ埃國ノ提議ニ係リ其理由ハ敵國固定病院等ノ自國権内ニ陥リタルトキハ其所在地力戰闘ノ衝ニ當ル場合アルヘク其他軍事上ノ必要ニ依リテハ其病院内ノ病傷者ヲ他ニ移転シテ同建築物ヲ他ノ目的ニ使用スルコトアルヘキカ故ニ本文ノ規定ヲ必要トスルニ在リ本委員等モ別ニ異議ナキカ故ニ之ニ賛成セリ

第十六條ハ瑞西政府ノ第一問ヲ討論シタル結果ニ出テ歐洲諸國ニ於テハ瑞西、埃、伊諸國ノ如キ軍隊衛生機關ノ全部又ハ大部分ハ私立救護団体ノ手ニ在ルカ故ニ私立救護協會ニ屬スル各種ノ材料ハ私有財産ト同一ニ取扱フトキハ大ナ

一体ヲ為シ居ル救護協會ハ海牙條約ノ規定ニ關係ナク少クモ其協會ノ固定設備ニ屬スル材料ハ戦争法ノ下ニ立ツヘキモノナリト反駁シ希國及埃國ハ英國ノ説ニ賛成シ蘭國其他諸小國ハ露仏ニ同意シ殊ニ露國委員ハ日露戰爭中露國第三野戰陸軍病院ノ材料ハ日本軍ノ手ニ陥リタルモ赤十字社ノ固定病院ハ其材料ノ保有ヲ日本軍ニ於テ許シタリト説述セリ本委員等ハ救護団体ノ固定病院ニシテ軍隊衛生機關ノ一部ヲ為スモノハ其材料モ亦陸軍病院ト同一ノ待遇ヲ受クルヲ至當ト認メタルカ故ニ我仮定案第十七條ノ規定ニ拘ラス最初ヨリ英國ト同一意見ヲ有シ明石委員ヨリ私立救護団体ニ對シテ交戰國ノ衛生機關ヨリモ一層大ナル特典ヲ付与スルトキハ軍隊固有ノ衛生機關ヲ有スルハ却テ不利ナル結果ヲ生シ純然タル軍隊衛生機關ハ私立救護団体ノ為メニ蠶食セラルルニ至ルノ危険アリト論シタルモ票決ニ當リ英國ノ提議ハ委員會ニ於テ十一ニ對スル十五ノ多數ヲ以テ否決セラレ更ニ總會ニ於テ英國委員ハ「私有財産ト看做サル」以下ヲ削除シ「其一部ヲ為シ居ル交戰國衛生部ノ材料ト同様トス」ト修正ヲ出シ本委員等ハ之ニ賛成シタレトモ日英米ノ外ハ一國モ之ニ賛成スルモノナク二十九箇國ノ一致ニ依リ本文ノ規定ヲ見ルニ至レリ但シ戦争法上仮令私有財

ル不權衡ヲ生セサルヲ得ス就中移動機關ノ材料ハ軍隊附屬ト赤十字社附屬トヲ問ハス戰地ニ於テ均シク還付セラルヘキモノナルモ固定病院ノ如キ固定設備ノ材料ニ至リテハ軍隊附屬ノモノハ占領軍ニ於テ之ヲ使用スルニ拘ラス私立救護協會所屬ノモノハ私有財産トシテ不可侵ノ待遇ヲ有スヘキニ至リ前記諸國ノ如キ軍隊衛生機關ノ全部又ハ大部分ヲ私立団体ノ手ニ委スルモノハ非常特別ノ優待ヲ受クヘキカ故ニ此点ニ付本委員等ハ豫メ英國委員ト協議スル所アリ英國ハ本條約ニ依リ保護セラルヘキ救護協會ハ軍隊衛生機關ノ一部ヲ為スカ故ニ軍隊衛生機關ト同一ノ待遇ヲ受クヘキ凡テ移動機關ハ其材料ヲ保持スヘキモ救護協會ノ固定設備ハ軍隊ノ固定病院ト同ク其材料ハ戦争法ノ下ニ立ツヘキモノナリトノ動議ヲ出シ露國及仏國ハ救護協會ノ財産ハ固ヨリ私有財産ニシテ私有財産ノ尊重及慈善的建築物ニ屬スル財産ハ仮令國家ニ屬スルモノモ亦私有財産同様ノ取扱ヲ為スヘキコト並ニ私立会社ニ屬スル軍用品ノ還付又ハ賠償ハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル海牙條約第四十六條及第五十六條等ニ規定シ在ルカ故ニ此規定ニ付テハ既ニ異議ヲ挾ムノ余地ナキモノトシ英國委員ハ軍隊ノ衛生事業ニ從事シ之ト同

產ニ付テモ交戰者ハ之ヲ徵発スルノ權利ヲ有スルコト当然ニシテ之ヲ本文中ニ加ヘタルハ分科委員會ニ於テ英國ノ提議ヲ否決シタル後露國委員ノ注意ニ依リタルモノトス

第五章 後送機關

第十七條ハ第一分科委員ニ於ケル旧條約第六條末項ノ討論ニ於テ後送機關内ニ在ル傷病者及其救護ニ從事スル人員ノ取扱ハ既ニ決定シタル所ナルカ故ニ第三分科委員會ニテハ單ニ後送用具ノ取扱ヲ討論シ先ツ後送機關ハ衛生移動機關ト同一ノ待遇ヲ受クルト雖モ車輛ニシテ正式的衛生部用以外ノモノ及軍隊ニ所屬スル救護員以外ノ人員ハ戦争法ノ一般法則ニ依リ支配セラルヘキコトヲ決議シタルノ結果之ニ關スル諸種ノ注意ヲ綜合シ本文所定ノ條規ヲ作成シ之ヲ決議シタルモノトス就中起草委員會ニ於テ此規定ニ付秋山委員ハ「内國航行ノ船舶」ナル用語ハ海軍ノ正當ナル捕獲物ト為スヘキ港灣内航行ノ船舶ヲモ包含スルノ虞アリト論シ之ニ代フルニ海牙條約ノ如ク「海上法ノ規定外ニ在ル船舶」ト為スコト字句ノ好良ナラサルモ其意義明確ナリト發議シタルニ適當ナル文字ナキノ故ヲ以テ本文ノ文字ヲ存スルコトトシ起草委員會ノ報告中ニ不完全ナカラ河川運河及湖水航行ノ船舶ヲ意味ストノ説明ヲ加ヘタリ

第六章 特別記章

第十八條ハ本條約保護ノ下ニ在ル人員及物件ニ適用スヘキ記章ニ關スル瑞西政府ノ第十二問ノ結果ニ出テ我仮定案ニ於テハ赤十字記章ヲ採用シ土國ノ嘗テ採用シタル如キ赤新月形ナトヲ許スヲ不可ト為シアルカ故ニ加藤委員ハ他國ノ發言ニ先チ赤十字記章ハ何等宗教上ノ意義ヲ有スルニ非ス日本政府ハ赤十字記章ノ變更ニハ絶体的ニ反對ナリト宣言シ清國波斯及暹羅ノ三國委員ハ本國政府ニ請訓中ナル旨ヲ述ヘ其他ノ列國ハ我國ト同シク總テ赤十字ヲ唯一ノ記章ト為スコトヲ決議セリ其後清國及暹羅國ハ本國ヨリノ訓令ニ依リ赤十字記章ニ同意ヲ宣言シタルモ波斯國ノミハ調印ノ際之ヲ保留シタリ

本條冒頭ニ於ケル「瑞西國ニ敬意ヲ表スル為メ」ノ一句ハ当初仏國ノ發議ニ出テ英國ノ反對アリシモ其他ニ異議ヲ唱フルモノナクシテ採用ニ至リタリ元來赤十字條約ハ固ヨリ瑞西政府及其國人ノ尽力ニ依リ發生シタルモノナルカ故ニ當時瑞西聯邦國旗ノ着色ヲ反對ニシテ赤十字記章ト為シタルハ同國ニ敬意ヲ表スルノ趣旨ニ出テタルコト疑ナシト雖モ今回ノ會議ニ於テハ四十餘年來旧條約ニ規定セル記章ヲ繼續スルニ止ルカ故ニ新條約中ニ此文ヲ特ニ入ルルノ要

モ尊重セラルヘキコトヲ注意シタルニ起草主任仏國「ルノール」氏ハ之ニ答ヘ当初英國委員ヨリ條約中ニ其保護スヘキ物件ノ列記ヲ請求シタルモ諸種多數ノ物件ヲ一々列挙スルコト能ハサルカ故ニ茲ニ一切ノ物件ト為シタル所以ニシテ固ヨリ病院繃帶所等衛生機關内ニ使用ノ物件ハ赤十字記章ナキモノト雖モ當然保護セラルヘク單ニ車輛其他同機關ニ所屬ノ物件ニシテ病院繃帶所外ニ在ルモノニ付赤十字記章ナキモノハ戰利品トセラルルコトアルニ止ル旨ヲ説明シ尙ホ同一ノ誤解ヲ防クカ為メ同氏ハ委員會ニ於テ特ニ之ヲ宣明シ總報告書中ニモ同一趣旨ノ説明ヲ加ヘタリ

第二十條ハ旧條約第七條第二項ニ關シ英國委員ハ赤十字記章ヲ必ス陸軍省ヨリ交付シ之ニ陸軍省及衛生長官ノ印ヲ捺スヘキコトノ提議ヲ熱心ニ主張シタルモ其濫用ヲ防クノ精神ハ可ナリト雖モ其手數煩雜ナルカ故ニ本委員等ハ之ニ同意ヲ表セザリシカ遂ニ英國ノ此提議ハ否決セラレ之ト同時ニ赤十字記章ハ相當軍憲ヨリ之ヲ交付シ且其臂章ニ同軍憲ノ印ヲ加フルコト及軍隊ノ衛生事業ニ從事スル者ニシテ制服ヲ有セサルモノニ付テハ臂章ノ外其證明書ヲ携帯スヘキコトヲ全会一致ヲ以テ可決ニ至リタリ加之我仮定案第九條ニハ臂章裝附法ヲ定ムル議アラハ同意スルヲ要ストアリ

ナキノミナラス國際條約中ニ斯ル字句ヲ記載スルハ穩當ナラサルノ嫌アリ依テ英國「ホルランド」氏ハ頻ニ削除說ヲ主張シタルモ瑞西官憲ハ此一句ニ對シテ非常ニ感謝シ居ルカ故ニ敢テ其削除ニ賛成スルモノナク大勢固ヨリ動スヘカラサルコト明白ナルノミナラス新條約中ニ此文ヲ置カントスルノ趣旨ハ土國ノ如キ宗教上ノ關係ヨリ赤十字記章ノ為メ今回ノ會議ニ參列セサル國アル故今後加盟國ニ對シテ赤十字記章ノ原由ヲ示シ宗教上ノ意義ナキコトヲ明ニスル為メニシテ英國案ニ於ケル如キ赤十字記章ノ下ニ「何等宗教上ノ意義ヲ有セサル」云々ノ割注モ体裁上佳良ナラサルカ故ニ本委員等ハ敢テ此一句ノ為メ諸國一般ノ動カスヘカラサル意向ニ反對ヲ唱フルノ必要ナカルヘシト思考シ之ヲ默諾シタリ

第十九條ハ旧條約第十七條ノ變形ニシテ全会一致ヲ以テ通過シタルモノトス但シ分科委員會ノ討論中夜間記章ノ問題出タルニ依リ我國ニ於テハ夜間ハ赤十字ノ紅灯ヲ使用スルコトヲ注意シ又同條中衛生事業用ノ一切ノ材料ニ赤十字記章ヲ附着スヘシトアルニ付テハ本委員等ハ治療其他病院又ハ繃帶所ニ使用スル細大ノ物件ニ悉ク記章ヲ付スルコト不可能ナルヘク衛生機關内ニ使用スル物件ハ赤十字記章ナキ

現ニ日露戰爭中ニハ露國衛生部員ト稱スル者ニシテ臂章ヲ制服ニ固着セス一本ノ「ピン」ニテ之ヲ附着シ何時ニテモ本人ノ任意ニ装着及脱却シ得ルコトトシ甚シキハ明カニ戰鬪員ナル者俘虜收容所ニ來リ衛生部員ノ待遇良好ナルヲ目撃シ懷中ヨリ臂章ヲ出シテ左腕ニ附着シタル事實アリタルカ故ニ本委員等ハ我仮定案理由書ノ趣旨及陸戰ノ法規慣例ニ關スル海牙條約第一條ノ民兵及義勇兵團ニ付テモ同一趣旨ニ依リ其記章ハ固着 Fasten トアルト均シク同一規定ヲ至当ナリト信シ加藤明石秋山三委員ヨリ交々之ヲ提議シタルニ滿場之ニ賛成シテ本文ノ如キ規定ヲ見ルニ至リタリ

第二十一條第一項ハ旧條約第七條第一項ニ於ケル赤十字旗ニ國旗ヲ添ヘテ樹立スヘキ規定ノ意義ヲ明カニシタルモノニ屬シ何人モ異議ナク之ヲ可決シタレトモ第二項ニ於ケル軍隊ノ衛生移動機關ニシテ敵國ノ權内ニ陥リタルトキハ本國ノ國旗ヲ樹立スヘキヤ占領軍ノ國旗ヲ樹立スヘキヤノ問題ニ關シテハ分科委員會ニ於テ大議論アリ本委員等ハ敵國衛生移動機關ニシテ自國軍ノ權内ニ陥リタルトキハ占領軍ノ保護ノ下ニ立チ其機關内ニ收容スル病傷者ハ固ヨリ俘虜ニシテ之カ保護ハ占領軍ノ責務ニ屬シ之ニ從事スル敵國衛

生部員ハ占領軍ヨリ俸給ヲ受ケ占領軍ノ救護事業ニ從事スルモノナルカ故ニ之ニ占領軍ノ国旗ヲ樹立スヘキヲ当然ト思考シ尙ホ明石委員ハ占領軍ノ国旗ヲ樹立セサルトキハ却テ實際ノ危険アリトノ注意ヲ為シ英独埃等ノ諸国モ之ト同説ナリシカ故ニ一旦之ニ決定シタルモ總會ニ於テ仏国委員ヨリ「占領者ニシテ移動機關ノ保護上有益ト認ムルトキハ本国国旗ヲ樹立セシムルコトヲ得」トノ修正案ヲ提議シ更ニ独国委員ヨリ斯ル一時的抑留ノ場合ニハ赤十字旗ノミニテ足レリトノ提議出テ列国ハ殆ント悉ク独逸案ニ賛成シ大勢如何トモ為スヘカラサリシカ故ニ本委員等モ止ヲ得ス之ニ同意セリ

第二十二條第二項ニ関シ我仮定案ニハ中立国ノ救護會ニシテ交戦国一方ノ衛生事業ニ加ハルトキハ赤十字旗ニ添ヘ中立国ノ国旗ヲ樹立スヘク之ヲ禁スルハ難シトアレトモ本委員等ハ同救護會ハ此場合ニ於テ交戦国ノ保護ノ下ニ立テ同国軍隊衛生部ノ一部ヲ為シ其事業ニ從事スルモノナルカ故ニ其監督保護ノ下ニ在ル交戦国ノ国旗ヲ樹立スルヲ可ト思考シ列国委員モ此点ニ付甚シキ異議ナクシテ之ヲ可決セリ但シ其移動機關ニシテ敵国ノ手中ニ陥リタル場合ニハ前

ノ反対及五箇国ノ棄權ヲ除クノ外他ノ二十五箇国ノ一致ヲ以テ之ヲ可決シ本委員等モ我仮定案第二十五條及同條理由書ニ依リ我政府ハ此記章ノ禁止ニ付テハ異議ナキヲ認メタルヲ以テ本條ニ賛成ヲ表シ英國委員ノミハ遂ニ此條項ヲ保留シテ調印セリ

第七章 條約ノ適用及実行

第二十四條ハ海牙條約其他一般條約ノ規定ト同シク總テ條約ノ規定ハ締約国相互間ノミヲ拘束スルノ原則ニ基キタルモノニシテ各国異議ナク可決ニ至リタリ

第二十五條ハ凡ソ一般條約ニ於テハ詳細ノ事項ヲモ悉ク規定シ能ハサルト同シク本條約ニモ赤十字條約ノ適用ニ関シ細部ノ場合ヲ一切規定スルコト不可能ナルカ故ニ起草委員ニ於テ旧條約第八條ノ規定ニ基キ軍司令官ハ前諸條ノ実行及其諸條ノ規定以外ニ渉ル事項ニ付テハ本国政府ノ訓令及本條約ノ一般原則ニ依リ其實行ヲ勉ムヘシトノ權能ヲ規定シタルモノニシテ此規定ノ必要ニ付テハ議論アリ秋山委員ハ必スシモ條約中ニ其規定ヲ設クルノ必要ヲ認メサリシカ故ニ中立ノ態度ヲ取リタルモ多数ノ意見ハ之ヲ置クヲ是ナリトシ總會ノ決議ヲ通過シタルモノトス

第二十六條ハ瑞西政府ノ第十四問ニシテ列国異議ナク満場

條第二項ト同シク赤十字旗ノミヲ樹立スヘキコトハ前條ノ決議ニ伴ヒ總會ニ於テ修正セラレタリ

第二十三條ハ瑞西政府ノ第十三問ニ屬シ仏国「ルノール」氏ハ他ノ諸條約中ニ於ケル同一規定ヲ參酌シテ「締約国政府ハ本條約ノ規定ニ対スル違反殊ニ赤十字記章若ハ名称ノ使用又ハ濫用ハ其輕重ニ応シテ之ヲ禁止スルニ必要ナル手段ヲ取ルカ又ハ自国ノ立法機關ニ其手段ヲ取ルヘキコトヲ提起スヘシ」ト立案シ新條約中ニ斯ル規定ヲ設クヘキヤ否ヲ會議ニ問ヒタルニ英國ノ反対並ニ瑞典及波斯両国ノ棄權ヲ除クノ外ハ總テ其規定ニ賛成シ同氏ハ更ニ其趣旨ヲ敷衍シ列國中斯ル赤十字記章ノ禁止ヲ法律ト為シ居ル諸国ト雖モ條約上斯ル規定ヲ望ムナルヘク仏国ノ如キハ國際的ニ之ヲ禁止セサル以上ハ其禁止ノ内國法ニ對シ商人ノ反対アリトシ埃国委員モ他国ニ於テ同一禁止ヲ為スニ於テハ埃国モ其禁止ヲ為スヘシト言明シタリ独リ英國委員ハ同国ニ於テ斯ル法律ヲ新ニ設定セントセハ国会ノ議決ヲ得ルコト容易ナラサル事情アリテ之カ為メ幾年ヲ要スルヤ知ルヘカラサルカ故ニ此規定ノ趣旨ヲ諸国ノ希望トシテ決議スルニ止ルコトヲ主張シタルモ總會ニ於ケル本條ノ票決ニ當リ英國

一致ニテ之ヲ可決シ尙ホ加藤委員ヨリ我仮定案第二十八條ノ如ク軍隊ニ付テハ教示トシ國民ニ付テハ告示ハ、手続ト為スノ可ナル理由ヲ説述シ此点ニ付テハ一般ノ同意ヲ得ルニ至レリ

第八章 濫用及違犯ノ防止

第二十七條ハ第二十三條ト同シク赤十字ノ記章及名称ニ關スル濫用ヲ防止スルニ在リ第二十三條ニ於テハ平時戰時ヲ問ハス赤十字條約保護ノ下ニ在ル衛生移動機關及固定設備並ニ同條約ニ依リ保護セラルル人員及材料ノ外該記章及名称ヲ使用スルコトヲ禁止スルノ原則ヲ規定シ本條ニ於テハ該禁止ノ実行ニ付立法手段ヲ講スヘキコトヲ規定スルニ在リ此問題ハ第二十三條ト同シク瑞西政府ノ第十三問ヲ討議シタル結果ニシテ英國ノ反対論アリ同国ニ於テハ一般ニ人望アル法案ト雖モ国会ニ於テ之ヲ可決シ法律ト為ルニハ五六年ヲ要スルカ故ニ本條ノ如キ約定ヲ為スコト能ハサル旨ヲ以テ之ニ反対シタルモ列国ノ多数ハ此規定ニ賛成ナリシノミナラス仏国ノ如キハ同國商人等ニ赤十字記章ノ濫用ヲ禁止セントセハ國際條約ヲ以テ世界一般ニ禁止ノ規定ヲ作ラサル以上ハ行ハレ能ハサルノ理由ヲ以テ熱心ニ此規定ノ

必要ヲ主張シ票決ノ結果ハ英國ノ反對及五箇國ノ棄權ニ對シ二十五箇國ノ多數ヲ以テ之ヲ可決セリ

我仮定案第二十五條ニハ赤十字記章及名称ハ條約保護ノ下ニ在ル軍隊衛生部及赤十字社ノ外之ヲ使用スヘカラサルヲ可トシ其理由書中ニハ本條約ニシテ成立セハ其濫用者ヲ罰スルノ法案ヲ立ツルヲ要ストアリ且我國ニ於テハ假令商標法等ニ赤十字記章及名称ヲ禁止スルノ條項ナキニ拘ラス歐米諸國トハ事情ヲ異ニシ好シテ赤十字ノ商標又ハ名称ヲ使用スルモノ多カラサルヘキカ故ニ本委員等ハ歐米諸國ノ如ク特ニ條約中ニ此規定ヲ設クルノ必要ナキト同時ニ英國ノ如ク甚シク之ニ反對スルノ必要ナシト思考シタリ但シ本條中「今日迄法律ノ完全ナラサル」ノ一句ト「其立法機關ニ提出ス」云々ノ一句ハ不必要ト認メ「締約國ハ其防止ニ關スル必要ノ手段ヲ取ルコトヲ約定ス」ト規定セハ足ルノミナラス然カスルニ於テハ我國ノ如キ其禁止ニ付別ニ法令ヲ發布セス單ニ行政手段ニテ之ヲ實行セラルヘシト思考シタルカ故ニ本委員等ハ記章主任「ルノール」氏ニ其削除ヲ迫リタルモ第二十八條ニ於ケル同一文句ト共ニ其削除ノ承諾ヲ得ルニ至ラス遂ニ此條文ヲ確定ヲ見ルニ至リタリ

第二十八條ハ瑞西政府ノ第十三問即チ締約國ハ赤十字條約

テハ本國主權ヲ代表スルモノナルカ故ニ戰爭法ノ違反ハ軍令ニ依リ其必要ニ応ジ処罰スヘキモノナルヲ以テ赤十字條約ノ違反ハ悉ク平時内國法ノ如ク議會ノ協賛ニ依ル普通立法上ノ刑罰法ヲ以テ其刑罰ヲ箇條ト為シ置クヘキモノニ非ス

第二、赤十字條約ノ如キ戰時戰地ニ於ケル軍隊ノ行為ヲ規定スル條約ハ文明國ノ良心ニ依リテノミ其實行ヲ見ルヘク其違反ニ對スル刑罰ノ有無ハ戰地ノ行為ニ對シテ何等ノ価値ナシ加之萬國赤十字條約締結ノ當時ニ於テハ各國軍隊ニ於テモ未タ之ヲ熟知セザリシカ故ニ普仏戰爭中ノ如キ兩國軍隊ニ於テ多數ノ違反アリタレトモ爾後文明ノ進歩ト人情ノ發達トニ伴ヒ列國軍隊ニ於テモ同條約ノ趣旨ヲ漸ク熟知スルニ至リ近來ノ戰爭ニハ交戦者ノ赤十字條約違反最モ稀ナルニ至リタルノ事實ハ以テ同條約ノ實行ハ刑罰の制裁ニ依ラサルモ文明國ノ良心ニ信頼シテ其實行ヲ斯シ得ヘキコトヲ證明シ居ルカ故ニ今日遽ニ其違反ニ對スル刑罰ヲ設クルノ必要ナシ

第三、赤十字條約ノ規定ハ刑罰ノ制裁ニ依ラス近來殆ント完全ニ實行セラレ居ルニ拘ラス今日其刑罰ヲ設定スルニ於テハ各國ハ五ニ其刑名ヲ美ニスルニ至ルヘキモ實際戰

ノ一切ノ違反ヲ処罰スルニ必要ナル立法手段ヲ探ルヘキコトヲ規定スル必要アリヤ否ノ問題ヲ討論シタル末決定ニ至リタルモノニシテ此点ニ付キ英國仮定案前提文ニハ各國ノ法律ニ於テ赤十字條約ノ一切ノ違反ニ對スル刑罰ヲ設クルコトヲ希望スト記シテ直接ニ其立法手段ヲ探ルコトヲ國家ノ義務トスルコトヲ避ケタリ之ニ關シ同國委員カ内密ニ本委員等ニ説明シタル所ニ依レハ從來萬國赤十字會ノ意向及決議並ニ近來歐洲一般ノ學說及世人ノ意向ハ赤十字條約ノ違反ニ對シテ刑罰ヲ設定スヘキコトニ殆ント一致シ來リ居ルカ故ニ英國ハ之ヲ欲セサルモ正面ニ之ニ反對スルヲ好マサルカ故ニ右ノ如ク實際ニ於テハ何等ノ實用ナキ希望ヲ表明シテ以テ其實ヲ避ケントスルニ在リト云ヘリ我仮定案第二十七條ニハ本條ト略同一趣旨ノ規定アリテ其理由中ニ「本條議題ト為ラハ成立セシメサルノ方針ヲ取ルヘシ」トアリ特ニ本委員等ハ條約ノ一切ノ違反ニ對シ刑罰ヲ設ケ之ヲ列國ニ通知スルハ左ノ理由ニ依リ不得策ナリト信シタリ

第一、赤十字條約ハ主トシテ戰地ニ於ケル軍隊ノ行為ヲ規定スルモノナルカ故ニ之ヲ勵行スヘキコトハ軍司令官ノ責務ニ屬シ軍司令官ハ我憲法上天皇ニ直隸シ兵馬ノ大權ヲ陛下ニ代リテ行使スル如ク何レノ國ニ於テモ戰場ニ於

地ニ於テ自國軍人ノ敵國ニ對スル赤十字條約違反ヲ処刑シ若ハ戰爭後功勞アル軍人ニ其刑罰ヲ科スルコトハ容易ニ行ハレサルヘキカ故ニ本條規定ハ其適用上空文ニ止ルノ恐アリ

第四、本條第二項ノ如ク赤十字條約違反ニ對スル刑罰ノ箇條ヲ締約國互ニ之ヲ通知スルニ於テハ各國ハ其刑罰ノ外形ヲ競ヒ空文ノ美ヲ爭フニ到ルト共ニ益戰地ニ於テ其實行ノ困難ヲ來シ之カ為メ赤十字條約ノ信用ヲ減却シ此一條ノ為メ引ヒテ同條約全体ノ價格ヲ失墜スルニ至ル虞アルノミナラス右通知ニ依リ締約國ハ五ニ他國ノ刑條ヲ評論シ獨立國ノ有スル立法上ノ主權行為ヲ批議スルニ至ルヘシ

本委員等ハ以上ノ理由ヲ英國委員「ホルラント」氏ニ詳述シタルニ同氏ハ之ヲ默聽シテ大問題ナリト云ヒタルモ本委員等ト共ニ此理由ヲ議場ニ爭フ迄ニ至ラスシテ止ミ英國委員ハ單ニ同國ノ事情ニ訴ヘ例ヘハ前條記章ノ如キハ赤十字社救護員ノ外普通一般ノ病院ニ於ケル看護婦等モ之ヲ装着シ居リテ其禁止ハ英國ニ於テ容易ノ事業ニ非ス又此違反処罰ノ法律案ヲ同國國會ニ提出スルモ其可決ヲ得ルニハ先ツ新聞雜誌ニテ一般ノ輿論ヲ喚起シタル後ニ非サレハ行ハル

ヘカラサルカ故ニ此法律ノ制定ニハ多年ヲ要スヘシト云ヒ主トシテ同國ニ於ケル立法困難ナル事情ニ依リテ第二十三條第二十七條及本條ノ規定ニ反對シタルトモ本條ヲ否定スル一点ニ至リテハ本委員等ト全ク其軌ヲ一ニシタルカ故ニ兩國委員ハ互ニ意見ヲ内示シテ其態度ヲ一ニシタルモ其反對ハ日英兩國ニ止リ其他列國一致ノ賛成ニ依リテ本條ノ確定ニ至リタルヲ以テ本條ノ規定ハ交戰中戰地ニ於ケル軍人ノ行為ニ付之ニ刑罰ヲ科スヘキ重大ノ關係アルノミナラス陸軍刑法ノ修正ヲ要スル問題ナルカ故ニ六月二十八日明石委員ヨリ陸軍省ニ對シ念ノ為メ電信ヲ以テ本條ニ付英國及日本ハ反對シ他國ハ總テ同意ナリ英國ハ本條ヲ保留シテ調印ノ答ナル旨ヲ報告セリ

又前條ト同シク本條ニ於テモ「陸軍刑法ノ不完全ナル場合ニ於テ」トノ文字ハ不穩當ナルノミナラス此一句及「又ハ同國立法機關ニ提出スル」ノ一句ヲ削除スルトキハ條約トシテ國家力其實行ニ付如何ナル方法ヲ採ルモ妨ナク又實際ニ於テ赤十字條約違反ヲ嚴罰シ其違犯ナカラシムレハ列國ノ希望ヲ達スヘキノミナラス國際條約ノ体裁ニ於テモ締約國ノ内國秩序ニ容喙シテ主權ノ自由行為ニ干渉ノ規定ヲ避クルト同時ニ我國ノ如キハ從來ノ如ク其違犯ヲ軍令ニテ

考シタルヲ以テ七月三日加藤委員ハ外務大臣ニ打電シテ本條ハ英國ト共ニ之ヲ保留シテ調印スヘキヤ否ヤヲ帝國政府ニ請訓シタルニ翌四日同大臣ヨリ右ハ英國ト同シク保留シテ調印スヘキ旨電訓アリタリ依テ本條ハ最後ノ決議ニ際シ加藤委員ヨリ日本政府ハ條約第二十八條ノ適用ニ關スル陸軍刑法ヲ作ルヘキ約定ヲ今茲ニ為スコトヲ欲セサルカ故ニ同條ハ之ヲ保留スル旨ヲ言明シ新條約ニハ帝國及韓國ノ名義ニテ本條ヲ保留シテ調印シ英國ハ第二十三條及第二十七條ト共ニ本條ヲ保留シテ調印セリ尙ホ清國委員ハ前來此等條項ニ賛成シ來リタルニ拘ラス我宣言ヲ聞キ遽ニ第二十七條及第二十八條ヲ保留シタリ

一 般的規則

第二十九條以下ノ一般的規則ニ屬スル諸條ハ起草委員會ニ於テ海牙條約其他一般條約ノ規定ヲ參酌シ條約批准ノ時期及場所並ニ其手續、條約効力ノ發生時期、新旧條約ノ關係、委員ヲ派遣セザリシ締約國ノ調印時期及其方法、新旧條約締約國以外ナル國ノ加盟、新條約締約ノ廢棄權及其方法等ヲ規定シタルモノニシテ列國一言ノ異議ナク可決ニ至リタルモノトス

処罰シ陸軍刑法ノ改正ヲ要セサルヘキカ故ニ本委員等ハ起草主任「ルノール」氏ニ對シ帝國憲法上赤十字條約ノ違反ハ普通ノ法律ニ依ルヘキ性質ニ非ス軍司令官ノ大權ニ基ク軍令ニ依リ戰地ニ於テ処罰スヘキモノナルコトヲ説キ第二十七條ニ於ケル同一字ト共ニ前記二句ノ削除ヲ要求シタルニ仏國ノ如キハ戰地ノ違反ト雖モ法律ニ非サレハ軍人ヲ罰スルコト能サルカ如キ各國互其制度ニハ異ナル所アルヘキノミナラス締約國中ニハ立法行政及司法ノ機關スラ秩序ニ整備セス其法律ハ朝令暮改ナル國モアルヘキカ故ニ赤十字條約ノ違反ニ對スル処罰モ斯ル國ヲシテ正式ナル法律トシ瑞西政府ヲ介シテ他ノ締約國ニ通知セシメ置カサルトキハ其所謂違反処罰ノ約定ニ依賴シ難キ事情アリトノ故ヲ以テ容易ニ本委員等ノ説ニ同意セス同氏ノ理由トスル所ハ一概ニ排斥スヘキモノニ非サルト共ニ本委員等ノ所信モ亦有力ナル理由アリト信シタルノミナラス本件ニ付テハ終始英國委員ト進退ヲ一ニシ來リタルカ故ニ我仮定案第二十七條理由ノ末文ニハ「止ムヲ得サル情況ナレハ同意シテ可ナリ」トアレトモ最後ノ總會ニ於テ英國ヲ孤立ノ地位ニ陥ラシムルハ前來兩國協同ノ態度ニ鑑ミ情誼上不可ナリト思

第六、最終議定書仲裁裁判ニ關スル件

今回會議ニ於テ新條約附屬ノ最終議定書中赤十字條約ノ解釋ニ關シ平時ニ於テ生スヘキ締約國間ノ爭議ハ事情ノ妨ナキ限り海牙仲裁裁判所ニ提出スヘキ冀望ヲ言明スルコトヲ決議スルニ至リタリ是ヨリ先キ六月二十日第四分科委員會ノ席上ニ於テ同委員會議長露國「マルテンス」氏ハ突然露國政府ノ名ヲ以テ締約國ハ本條約ノ解釋及適用ニ關シテ生スヘキ一切ノ爭議ヲ時期如何ヲ問ハス事情ノ許ス限り海牙仲裁裁判所ニ提出スヘキコトヲ約定ストノ一條ヲ新條約中ニ規定スヘキコトヲ發議シタルニ英國委員ハ直ニ之ニ反對シタルトモ此問題ハ分科委員會ノ權限外ナリトノ注意ヲ与ヘタルモノアリタルヲ以テ露國委員ハ列國委員ノ熟考ヲ希望スト言明シテ更ニ之ヲ總會ニ出スコトトセリ

抑モ露國力此問題ヲ今回ノ會議ニ提出シタルハ其間ニ多少政治上ノ意味アルカ如ク聞ク所ニ依レハ瑞西政府ハ当初今回ノ會議ヲ本年九月ニ開会セシトノ意見ナリシモ露國政府ハ本年九月ニ平和會議ヲ開設スヘキ故ヲ以テ之ニ同意セス然ルニ此前海牙會議ノ議決ニ依リテ見ルモ第二平和會議ニ先チテ赤十字條約改正ノ會議ヲ開設スヘキ順序ナリシヲ以テ露國政府ノ反對ニ依リ瑞西政府ハ止ムヲ得ス本年六月開

会ト為シタリト云ヒ当初英國委員等ノ言ニ依レハ露國政府ハ赤十字條約ヲモ平和會議ニ於テ討議締結セントノ底意アルカ故ニ今回ノ會議ニハ議論アルヘシト豫期シ居タルニ其豫想ニ反シ會議ノ進行宜シキヲ見ルニ至リタルニ付テハ露國ハ勉テ瑞西ノ欲心ヲ買ヒ在露瑞西公使ナル本會議長「オーヂエー」氏ヨリハ開會式ノ演說中ニモ露國ノ主唱ニ係ル平和會議及仲裁裁判ニ關スル贊辭ヲ呈シ又本問題ノ討議中議長ノ態度ハ頗ル露國ノ提議ヲ成立セシメムト勉メタルカ如ク感セラレ瑞西國ハ目下仏國ト關稅問題ノ難關ヲ通過スル為メ殊更ニ露國ニ近接シ露國モ亦之ヲ利用シテ列國間ニ其威信ヲ維持セントシ赤十字條約ヲモ同國ノ主唱ニ係ル海牙仲裁裁判ニ引付ケント欲シタルノ真意ナリシヤモ知ルヘカラス

当初本件露國提議ノ發表アルヤ列國委員ハ各本國政府ノ訓令ヲ請ヒタリ英國委員ハ本委員等ニ對シ同國ハ從來他國トノ爭議ヲ仲裁裁判ニ付シタルコト多數ナルニ拘ラス未タ一回モ勝訴ト為リタルコトナク歐洲大陸諸國ト英國トハ政治上經濟上頗ル事情ヲ異ニスル所アルカ故ニ本件ノ規定ハ同國ニ取リ危險ナリト云ヒ本委員等ハ赤十字條約ノ解釋問題カ平時ニ於テ生スヘキコト殆ントナキヲ以テ露國提議ノ適

仲裁裁判所ニ提出セントノ提議ニ關シテ貴官ハ帝國政府ノ名ニ於テ全然不同意ナル旨ヲ陳述セラルベシ然レトモ參列國ノ多數カ同案ニ對シ同意ヲ表シタルトキハ贊否諸國ノ名ヲ挙ケテ更ニ請訓スヘキ旨ノ電訓ニ接シタリ然ルニ英國ハ勿論獨逸兩國等モ絶對的ニ此提議ニ反對ナル意向ヲ示シ米國委員モ亦露國案ニ反對スヘキ電訓ヲ受ケアルカ故ニ露國委員ハ苦境ニ陥リ同月二十七日同問題ヲ討議スヘキ日程ニ對シテ其討議延期ヲ請求スルニ至リタリ

前述ノ如ク露國政府ハ此提議ノ結果困難ナル地位ニ陥リ非常ニ煩悶ノ狀態ヲ呈シタルヲ以テ獨逸兩國委員ハ其狀ヲ察シ同案ニ反對ナリシニ拘ラス全然之ヲ否決セス以テ露國ノ面目ヲ維持セシメント焦慮シ條約解釋ノ紛議ハ事情ノ許ス限り成ルヘク海牙仲裁裁判所ニ提出スルヲ有益ト認ムト云フカ如キ修正ト為サントノ談合アリテ仏國モ同盟國ノ情誼上之ニ贊成ノ意向ヲ呈スルニ至リタリ此獨逸委員ノ修正案ハ露國ノ原案ニ大變更ヲ來シ海牙會議ノ國際紛爭平和的處理條約第十六條ニ

法律問題就中國際條約ノ解釋又ハ適用ニ關スル問題ニ付テハ記名國ハ外交上ノ手段ニ依リ結了スルコト能ハサリ

用ハ戰爭中交戰國軍隊ノ行為ニ對スル批難抗議ノ問題ヲ海牙仲裁裁判所ニ於テ判決スルニ至ルヘキカ故ニ其判決ノ結果ハ戰爭中交戰國ノ威信ニ多大ノ關係アルヘク況ンヤ我國ノ如キハ人情風俗言語等ヲ異ニシ政治上經濟上其他種種ノ点ニ於テ利害關係ノ同一ナラサル事情アルカ故ニ國際爭議ヲ漫ニ海牙仲裁裁判所ニ提出スルハ不得策ナルヘシト思考シタルノミナラス我仮定案第二十九條ノ理由書ニモ本問題ニ付テハ成ルヘク同意セサルヲ要ストアルヲ以テ本委員等ハ当初ヨリ絶對的ノ不同意ノ態度ヲ取リタリ此際米國委員ハ内密ニ英國委員及本委員等ノ意見ヲ徵シ從來同國政府ニ於テハ仲裁裁判ヲ獎勵贊成シ來リタルコトナレトモ日英兩國委員ニシテ反對ナル上ハ更ニ本國政府ノ訓令ヲ請フヘシト云ヘリ尤モ我仮定案ニハ成ルヘク同意スヘカラストアレトモ帝國政府カ絶對的ノ本案ニ反對ナルヤ否ヲ推知シ難ク此点ニ付テハ本問題ノ進行上豫メ之ヲ確メ置クノ必要アリト認メ六月二十二日加藤委員ヨリ外務大臣ニ打電シテ其情ヲ具シ右ハ帝國政府ノ名ニテ不同意ヲ唱フヘキヤ又ハ本委員ノ意見トシテ反對シタル上多數諸國同意ナルトキハ調印シテ宜シキヤヲ請訓シタルニ同月二十六日外務大臣ヨリ加藤委員ニ對シ赤十字條約ノ解釋ニ關スル一切ノ紛議ヲ海牙

シ紛議ヲ處理スルニハ仲裁裁判ヲ以テ最モ有効ニシテ且最モ公平ナル方法ト認ム

ト規定シアルト殆ント同一ノ趣旨ナルカ故ニ之ニ對シテハ有力ナル輿論ヲ挾ムノ余地ナキト同時ニ既ニ海牙條約ニ其明文アル以上ハ更ラニ赤十字條約ニ之ヲ言明スルノ必要ナシト思考シ本委員等ハ此修正案ニモ英國ト同シク反對ノ意見ヲ有シタルニ拘ラス前記帝國政府ノ訓令中參列國ノ多數カ贊成ナルニ於テハ更ニ請訓セヨトアルカ故ニ六月二十九日加藤委員ヨリ再ヒ電信ヲ以テ獨逸兩國ノ修正案ニ仏國贊成ノ意向アル事情ヲ具シ右修正案ニ多數ノ贊成アリタルトキハ同意スヘキヤ又ハ之ヲ保留シテ調印スヘキヤヲ外務大臣ニ請訓シタルニ右ニ對シ同大臣ヨリ七月二日ヲ以テ「帝國政府ハ修正案ニモ不同意ナルニ付必要ナル場合ニハ本條ヲ保留シテ調印スヘシ」トノ電訓ニ接シタリ

七月二日ノ總會ニ於テ露國ハ正式ニ本問題ヲ提起シ同案ハ新條約中ニ

締約國ハ本條約規定ノ解釋ニ關シ相互間ニ生スヘキ一切ノ爭議ヲ事情ノ妨ナキ限り海牙仲裁裁判所ニ提出スヘキコトニ一致ス

ト一條ヲ規定セントスルニ在リ「マルテンス」氏ハ之ニ

説明ヲ加ヘ此提議ハ何等政略上ノ性質ヲ有セス又「ゼネヴァ」條約ノ趣旨ニ反スルモノニ非ス露國政府ヨリ此提議ヲ提出スルノ趣旨ハ全ク赤十字條約ノ意義ニ付屢々生スル爭議ヲ終了スル為メ同條約ノ解釈ヲ為スヘキ教憲ヲ定メントスルニ外ナラス從來諸方面ニ於テ提起セラレタル交戦軍ノ司令官及將士ヲ赤十字條約違反ニ對シテ裁判スヘキ司法機關ヲ設定スヘシトノ議論ハ絶對的ニ排斥スヘキモノナルニ拘ラス本提議ノ趣旨トスル所ハ戦争後例ヘハ平時ニ當リ本條約ノ解釈ニ関スル紛議ヲ審判スル為メ適當ナル司法機關ヲ求メントスルニ在リテ紛争国間ノ協議ニ依リ其各国ノ意思ニ從ヒ之ヲ海牙常設裁判所ニ提出スルヲ可トシ尙ホ事情ノ妨ナキ限リトアル以上ハ之カ為メ締約國ノ主權ヲ損スルコトナク海牙條約第十六條ノ適用ニ過キサルカ故ニ此提議ハ決シテ新規ナル問題ニ非ス既ニ公認セラレタル原則ニ関スル事實上ノ適用ナリト言明セリ

依テ独逸委員「ビュロー」公使ハ露國ノ此提議ニ同意スル能ハサル旨ヲ宣言シ其理由トシテ仲裁裁判ノコトハ海牙條約第十六條ノ規定ニテ足り國家ノ義務ヲ同規定以上ニ高ムルノ必要ナク又實際ニ於テ本案ノ場合ハ戦争中ニ生スヘキモノナレトモ戦争中ハ其爭議ヲ仲裁裁判所ニ提出スルコ

ヲ加味シタル成案ヲ起草シテ再ヒ之ヲ會議ニ提出スヘキコトト為レリ

七月五日ノ會議ニ於テ特別委員ハ本文ノ如キ最終議定書案ヲ作リテ議場ニ提起シタルニ歐洲大陸中ノ諸強國ハ既ニ一致ニ出テ他ノ諸小國及南米諸國ハ当初ヨリ仲裁裁判ノ絶對的賛成者ナルカ故ニ之ニ對スル賛成ノ声ハ議場ニ充滿シ票決ヲ用キス議場ヲ通過セントスルノ形勢アリシヲ以テ英國委員ハ弁論ヲ試ミス單ニ英國ハ反對ノ投票ヲ為スカ故ニ其賛否ヲ正式ニ票決ニ問フヘキコトヲ請求シ加藤委員モ帝國政府カ本案ヲ好マサル所以ハ仲裁裁判ノ主義ニ反對ナルカ故ニ非ス既ニ海牙條約ニ同一趣旨ノ規定アルヲ以テ玆ニ議定書ニ特記スル何等ノ必要ヲ認メサルニ在リ故ニ帝國委員ハ該最終議定書案ニ賛成セスト言明シタルニ此言明ニ對シテハ列國委員モ其正当ヲ認メ居タルカ如ク現ニ米國委員ノ如キハ曩ニ獨國ノ提議ニ関シテ英國委員及本委員等ノ意見ヲ叩キタル際英國委員ハ斯ル決議ハ危險ナリトノ理由ヲ以テ反對ナル旨ヲ述ヘ本委員等ハ該案ノ無意味ニシテ之ヲ規定スルノ必要ナキ旨ヲ以テ反對ナルコトヲ答ヘタルカ故ニ同委員ハ重テ本國政府ノ訓令ヲ請ヒ之ニ對スル回電文ヲ本委員等ニ示シタルニ米國政府ハ右決議案中ニ平時ニ於

ト不可能ニ屬シ戦争後ニ於テ其問題ヲ有効ニ討究スルニハ證據人ヲ缺クヘク加之海牙條約第五十六條ノ規定ニ依ルモ同裁判所ノ判決ハ紛争當事國ノミヲ拘束スルニ止ルヲ以テ露國政府ノ提議ノ如クナルニ於テハ同一事件ニ関シテ各別ナル紛争国間ニ起リタル仲裁裁判ニ依リ互ニ反對スル二個ノ判決ヲ見ルニ至ルコトアルヘシト反駁シタル後修正案ヲ提議シテ曰ク然レトモ露國ノ提議ニシテ若シ本會議ノ多数ヲ制スルトセハ独逸政府ハ一定ノ修正ヲ以テ之ヲ條約中ニ規定セス随テ批准ヲ要セサル最終決議書中ニ其冀望ヲ言明スルコトヲ辭セスト云ヒ獨國委員「ヘイドレル」公使ハ直ニ之ニ賛成セリ是ニ於テ「マルテンス」氏ハ独逸公使ノ好意ヲ謝シ其修正ヲ最終決議書中ニ入ルコトニ同意シ伊國及葡國委員ハ之ヲ賛成シ英國委員ハ更ニ之ニ反對シ秘魯、智利等ノ諸國ハ総テ仲裁裁判ニ同意ヲ表シタルカ故ニ加藤委員ハ帝國政府ノ名ヲ以テ仲裁裁判ニ關スル條項ヲ條約中ニ加フルコトヲ欲セサルコトヲ宣言シ米國委員ハ露國ノ提議ニ賛成スルコト能ハサルモ米國ハ常ニ仲裁裁判ヲ最モ熱心ニ唱道シ來リタルヲ以テ同裁判ノ一般原則ニ付テハ大ニ同情ヲ有スル旨稍々曖昧ナル宣言ヲ試ミ遂ニ同會議ニ於テハ四名ノ特別委員ヲ定メ露國ノ提議ニ獨國ノ修正

タル紛議トアルハ其實用ナキノミナラス本件ニ付テハ海牙條約第十六條ノ規定ニテ足ルカ故ニ独逸カ其提議ヲ強行セサルコトヲ希望スルニ依リ貴官ハ同國委員ヲシテ其撤回ヲ為サシムルコトヲ試ムヘシ然レトモ其提議ニシテ議場ノ票決ニ上ルニ於テハ米國政府ハ列國ニ對スル感情上反對ヲ欲セサルカ故ニ之ニ賛成スヘシトノ趣旨ナリシノミナラス獨逸兩國カ当初露國案ニ強硬ナル反駁ヲ加ヘタルモ亦我理由ト同一ナルニ依リ加藤委員ノ宣言ハ列國委員ニ少カラサル感覺ヲ惹起シタル如クナリシモ固ヨリ既ニ本案ハ是非ノ問題ニ非スシテ各国感情ノ問題ナリシヲ以テ議長ハ躊躇ナク之ヲ票決ニ付シタルニ日英兩國委員ノミ之ニ反對シ其他ノ諸國ハ一致ヲ以テ之ニ賛成セリ依テ英國委員ハ直ニ其賛否國名ヲ最終議定書本文ニ明記スヘキコトヲ請求シ露國委員ハ之ヲ欲セス少クモ海牙條約ノ決議書ノ如ク若干國ヲ除クノ外全会一致ト云フカ如キ文字ヲ以テセントシタルモ英國委員ハ断然國名ヲ明記セラルヘキ權利ヲ主張シタルカ故ニ本文ノ如ク賛成及不賛成ノ國名ヲ列挙スルニ至リタルモノトス尙ホ本件ニ付本委員等ハ終始英國ト其態度ヲ一ニシタルモ同國委員ハ单独反對ノ地ニ立ツニ至ルコトヲ快

トセサリシモノノ如クナリシニ本委員等カ七月二日帝國政府ノ電訓アリタルコトヲ内話シタルニ當リ大ニ同國委員等ノ態度ヲ強硬ナラシメ「ゼネヴァ」退去ノ際ニ至ル迄絶ヘス本委員等ニ向テ其歎喜ノ情ヲ表明シタル

第七、條約ノ調印及閉會式

右ノ如ク七月五日ノ會議ニ於テ全ク本條約及最終議定書ノ議定ヲ終ヘタルヲ以テ翌六日午後列國代表者ノ調印ヲ結了シタル後仏國大使ハ旧條約ノ成立ニ尽力シタル名譽議長「モアニエー」氏ニ對シテ謝辭ヲ述ヘ「ジュナン」氏ト共ニ同氏ノ成効ヲ祝シ次テ議長ハ瑞西聯邦大統領ノ新條約締結ニ對スル祝電ヲ朗誦シ了リ瑞西政府ノ名ヲ以テ列國委員ニ謝辭ヲ述フル為メ一場ノ演說ヲ為シ之ニ次キ「ゼネヴァ」參事會長ヨリ瑞西第二委員ニシテ本會副議長タル「ヴァンサン」氏ノ卒去ニ際シ列國委員ヨリ之ニ寄セタル同情ヲ感謝シ且「ゼネヴァ」市ノ名ニ於テ列國委員ニ謝辭ヲ述ヘ仏國大使ハ列國委員ニ代リ本會議長「オーデエー」氏ニ謝辭ヲ呈シ瑞西聯邦政府「ゼネヴァ」州及同市官憲ヨリ列國委員ノ受ケタル好意ヲ感謝シ最後ニ議長ノ簡短ナル答辭アリテ午後七時本會議ヲ閉會セリ

明治三十九年七月

萬國赤十字條約改正會議參列委員

特命全權公使 加藤 恒 忠
陸軍歩兵大佐 明石元二郎
陸軍一等軍医正醫學博士 芳賀榮次郎
海軍中佐公 爵 一條 実 輝
陸軍省參事官法學博士 秋山雅之介

赤十字條約改正會議中ニ於ケル日記

六月 八日 明石芳賀兩委員「ゼネヴァ」着「グラントホテルナシヨナル」ニ投宿
「ホテル」ニ投ス
英露獨埃葡白墨及波斯ノ八箇國委員モ亦同「ホテル」ニ投宿ス
午前十時「ホテルドビル」ニ到リ瑞西國首席委員「オデエー」氏ヲ訪問ス
午後四時大學會堂ニ於テ赤十字條約改正會議ノ開會式アリ一同臨席ス
同五時公益協會ノ招待ニ依リ列國委員一同「アテネ」會堂（千八百六十三年列國赤十字社設立會議場）ニ集合シ會長「ゴ

エッグ」氏ノ演說アリ茶菓ノ饗應ヲ受ク
同夜九時「ゼネヴァ」政庁ノ招待ニ依リ「バレーエーナル」ノ夜會ニ臨ム
六月十二日 午後總會第一回ニ出席ス
列國醫學專門委員ノ相談會アリ芳賀委員出席ス
六月十三日 午前第一第二第三第四分科委員會第一回ニ出席ス
午後總會第二回ニ出席ス
六月十四日 午前第一分科委員會第二回ニ出席ス
午後第二分科委員會第二回ニ出席ス
六月十五日 午前第三分科委員會第二回ニ出席ス
午後第四分科委員會第二回ニ出席ス
六月十六日 午前第一分科委員會第三回ニ出席ス
午後第二分科委員會第三回ニ出席ス
午後七時ヨリ「ホテルナシヨナル」ニ於ケル「ゼネヴァ」政庁ノ晚餐會アリ一同出席ス
六月十七日 午後萬國赤十字協會ノ招待ニ依リ同會長「モアニエー」氏ノ邸宅ニ於テ園遊會アリ一同出席ス
附 録 赤十字條約改正 一九八

六月十八日 午前第三分科委員會第三回ニ出席ス
午後第四分科委員會第三回ニ出席ス
六月十九日 午前第一分科委員會第四回ニ出席ス
午後第二分科委員會第四回ニ出席ス
同夜「ゼネヴァ」政庁ノ招待ニ依リ「グランドテアトル」ノ觀劇アリ一同臨席ス
六月二十日 午前第三分科委員會第四回ニ出席ス
午後第四分科委員會第四回ニ出席ス
英國委員ヨリ特ニ帝國委員ニ對スル晚餐ノ饗應アリ一同臨席ス
六月二十一日 午前第一委員會第五回ニ出席ス
同夜瑞西國駐劄米國公使ノ夜會アリ一同出席ス
六月二十二日 午後第四分科委任會役員會アリ加藤委員出席ス
六月二十三日 瑞西聯邦大統領ノ招待ニ応ジ「ゼネヴァ」湖舟遊「コー」山上「パラスホテル」ニ於テ午餐午後「ネー」巖附近見物ノ上歸途船中ニ於テ晚餐ノ饗應アリ一同出席ス
六月二十四日 日 曜

六月二十五日 午前第二分科委員會第五回ニ出席ス
夕刻議長「オーデエー」氏ノ晚餐会アリ
一同臨席ス
六月二十六日 午前第三分科委員會第五回ニ出席ス
午後第四分科委員會第五回ニ出席ス
午前總會第三回ニ出席ス
午後第一分科委員會第六回ニ出席ス
起草委員會アリ秋山委員出席ス
六月二十八日 午後總會第四回ニ出席ス
六月二十九日 午後英國委員一同ヲ晚餐ニ招待ス
六月三十日 午後起草委員會アリ秋山委員出席ス
七月一日 日曜
七月二日 午前起草委員會アリ秋山委員出席ス
午後列國委員ノ攜帶スル全權狀ノ検査アリ加藤委員出席ス
總會第五回ニ出席ス
七月三日 午後列國委員ヨリ瑞西政府及「ゼネヴァ」

海牙萬國
平和會議

日本外交文書 第一卷 終

政庁ノ当局者ヲ招待シ「ホテルナシヨナル」ニ於テ晚餐会ヲ開ク帝國委員一同出席ス
七月四日 午後起草委員會アリ秋山委員出席ス
七月五日 午後總會第六回ニ出席ス
七月六日 午後四時三十分條約ニ調印ス
午後五時四十五分ヨリ最終總會アリ七時閉会本日芳賀委員病氣ニ付欠席ス
同夜英埃獨露諸國ノ医事専門委員ヲ招待シ晚餐会ヲ開ク
七月八日 午前明石委員伯林ニ向ケ出發ス
午後瑞西國委員會議副議長「ヴァンサン」氏ノ葬儀アリ加藤秋山委員會葬ス
同夜芳賀委員「カールスバッド」ニ向ケ加藤一條秋山三委員巴里ニ向ケ出發ス

昭和三十年三月二十日 印刷
昭和三十年三月三十一日 發行

海牙萬國平和會議
日本外交文書
第一卷
不許複製

外務省 編纂
外務省 藏版

發行人 東京都千代田區丸ノ内二ノ十二
天 羽 英 二

印刷人 東京都千代田區霞ヶ關二ノ二
飯 室 信 吉

印刷所 東京都千代田區霞ヶ關二ノ二
外務省印刷所

發行所 東京都千代田區丸ノ内二ノ十二
財團法人 日本國際連合協會
電話東京(四)〇七二七番
振替東京五五一八三番